

# 近畿大学工学部建築学科 作品集

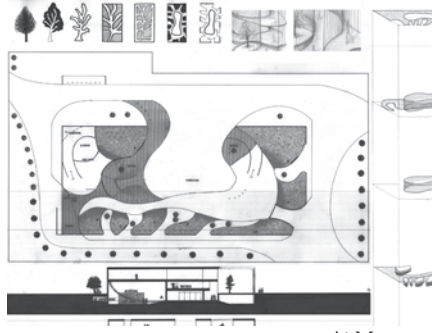
Department of Architecture, School of Engineering, Kinki University

## CONTENTS

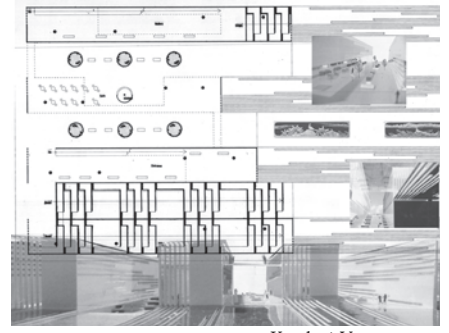
<b>1</b>	3年前期 建築設計演習Ⅱ	...	2
	01 「20世紀美術のための美術館」		
	02 「集合住宅」		
<b>2</b>	3年後期 建築設計演習Ⅲ	...	4
	01 「小学校」		
	02 「メディアセンター」		
<b>3</b>	卒業計画・卒業制作	...	6
	01 白の庭～地方都市の再構築～	荻田真士	
	02 Promenade～開かれた縁側の空間～	角田絵美	
	03 「波紋」～岡山駅の再開発～	石戸今日子	
	04 intersects	大野直美	
	05 Pedestrian space and 3 stations ～歩行者空間と3つの駅～	片口久美子	
	06 TOKUSIMA TOWER	山田貴仁	
	07 メガネの里～再活性化の器～	塚康弘	
	08 斜面における集合住宅の提案	大村拓也	
	09 解放区～境界線から生まれる空間～	佐藤悠馬	
	10 陰翳礼讃を超えて～暗闇の住まい～	高田耕平	
	11 Discovery Pocket ～商店街再開発計画～	田原康啓	
	12 Point of View Point ～新たなるアーバンランドスケープ～	塚本哲也	
	13 ハシラとハシラとそのアイダ	松井俊樹	
	14 Life long Learning／倉敷市中心街再生計画	森下理華	
	15 建築への介入 ～路地の場合～	山根央嗣	
	16 重なり合う住まい	米田北斗	
	17 HUMAN & GEO SPACE ーグランドラインの開放ー	大塚幸太	
	18 ツールを生み出す ～高岡の存在する意味～	荒井正彦	
	19 無際都市	井藤直子	
	20 Junk Terminal ～尾道水道の活性化～	木谷隆文	
	21 形態からの逸脱 ～湯の花地区活性化計画～	楠 和巳	
	22 自然への入り口	胡麻田悟史	
	23 駅かける本 ～ヒロシマ駅再考計画～	坂野新	
	24 Transition of the city -都市の移ろい- ～100道路文化村計画～	松浦奈保	
	25 より道の公園～川岸緑地帯の利用～	宮城麗子	
	26 生まれ変わる市民球場 ～市民の記憶が生き続ける建築空間の提案～	望月祐大	
	27 福井警察署建替計画	安川知佳	
	28 移ろう空間、動く機能 ～都市における鉄道貨物駅の可能性～	山田篤	
	29 SUIDEN HOUSE ～休耕田を活用した学生集住と水上デッキ空間～	鈴木聖明	
	30 SPREAD from market ー下関埋立地開発計画ー	後藤嗣樹	
	31 Mixture ー琴平駅統合計画ー	梶月裕司	
	32 Project C (Project Cafeteria) ー時を楽しむCafeteriaー	梅崎晋蔵	
<b>4</b>	修士設計	...	38
	01 都市のアジュール	石本直俊	
	02 B級の森	田村尚也	



Tomonori Asami



Ai Matsuno

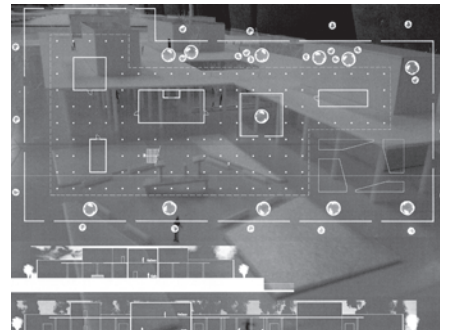


Kyohei Yamamoto



Yuki Sekiya

美術館



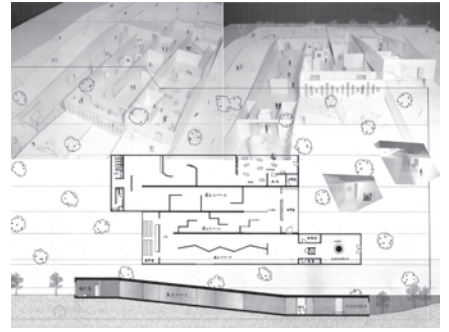
Yasutaka Miki



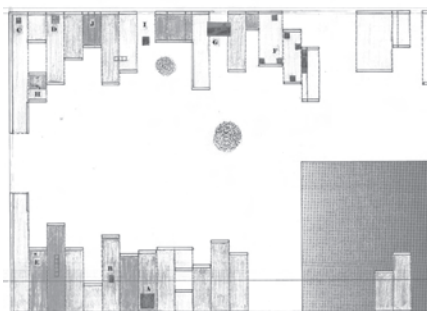
Takeshi Jono



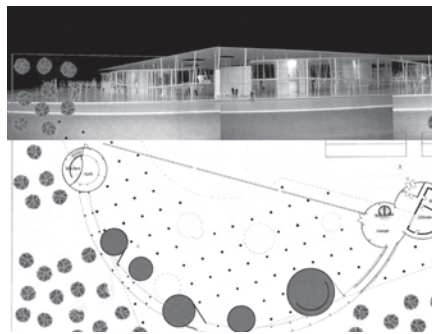
Miyuki Sakurai



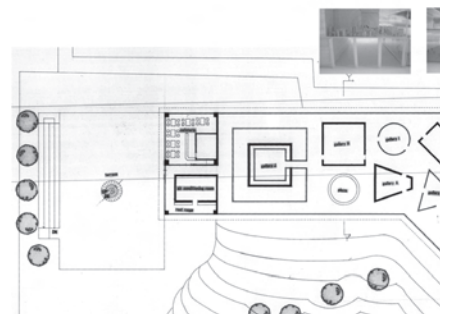
Yuta Yanagawa



Yusuke Nakahara

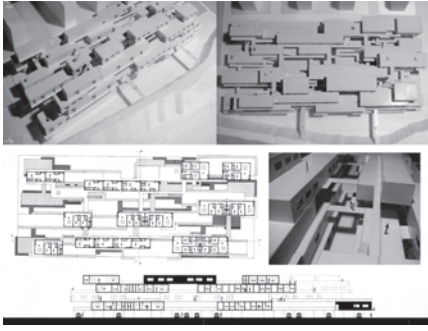


Asuka Une

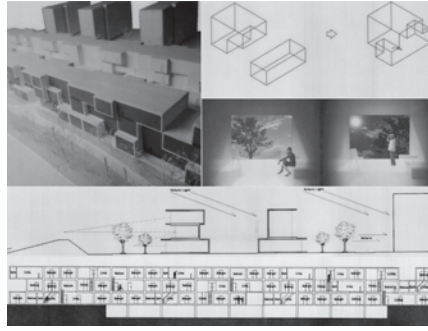


Ryo Miura

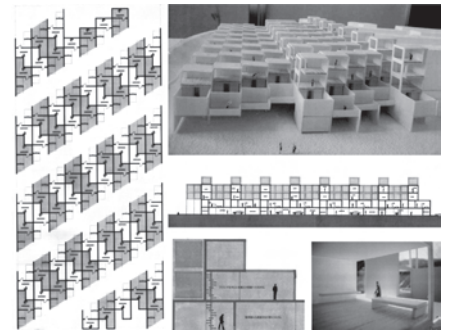




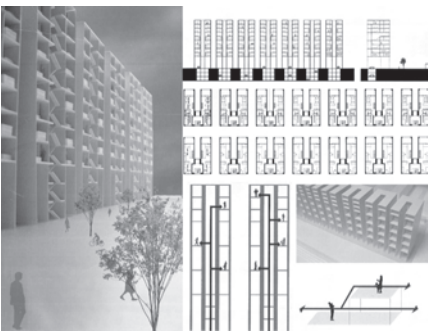
Koki Hoshino



Kyohei Yamamoto

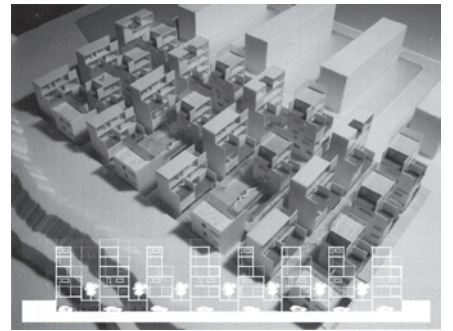


Yasuyuki Furuta

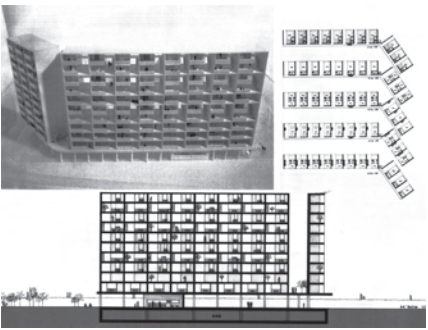


Tomonori Asami

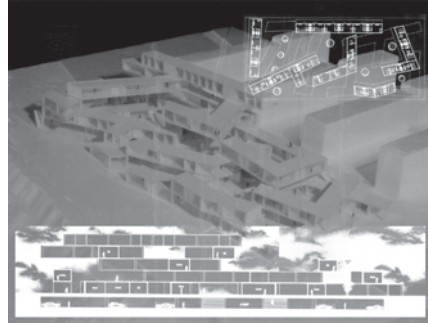
## 集合住宅



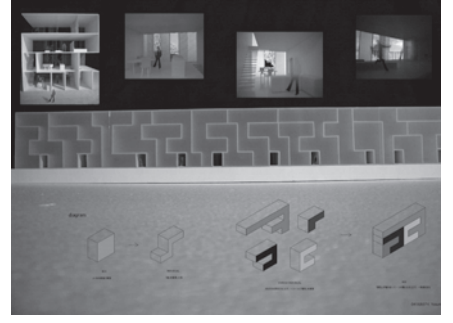
Ryo Miura



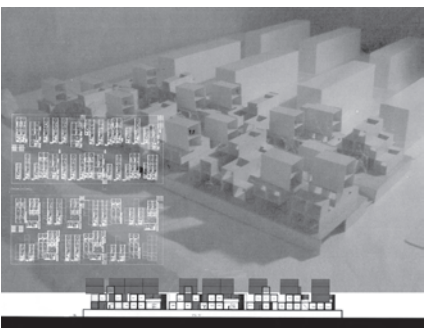
Yuki Sekiya



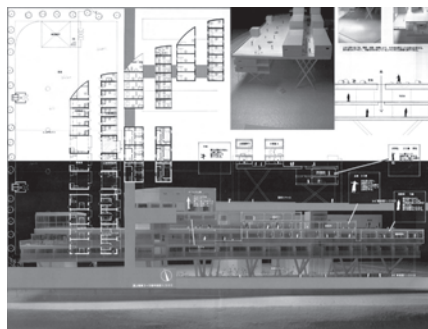
Masato Harada



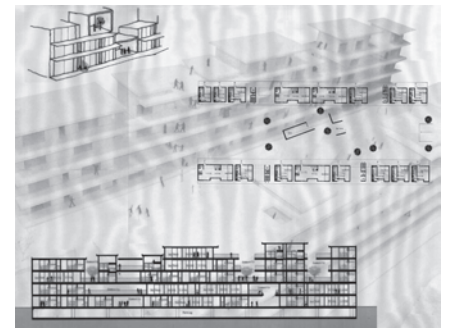
Yasutaka Miki



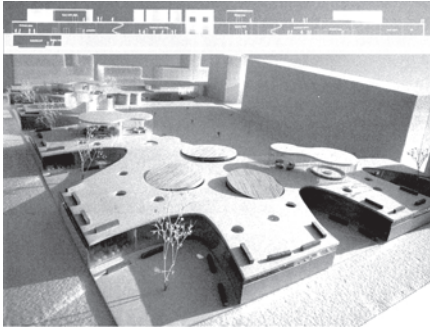
Kazunori Mitsutake



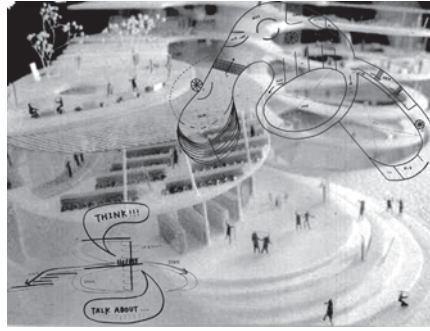
Takeshi Jono



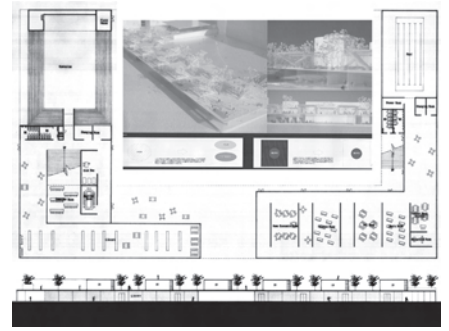
Asuka Une



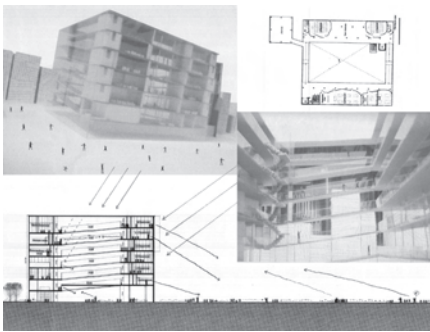
Ryo Miura



Ai Matsuno



Masato Harada

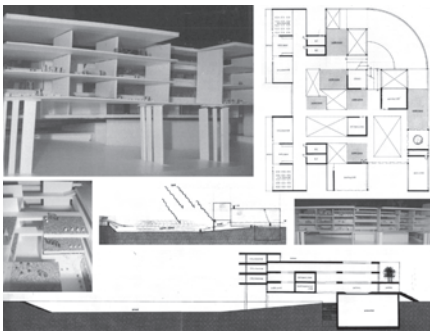


Asuka Une

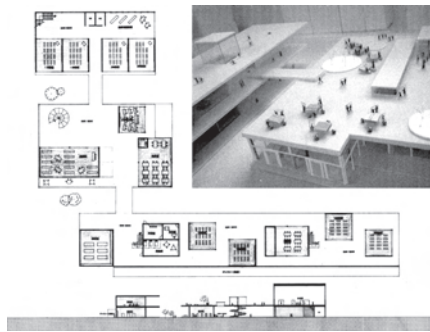
## 小学校



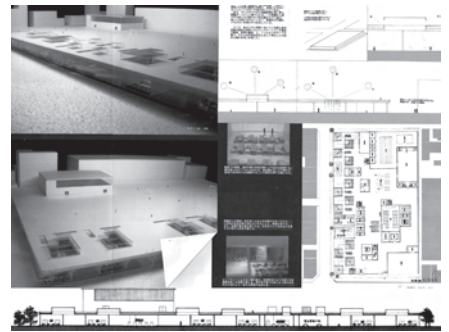
Yasutaka Miki



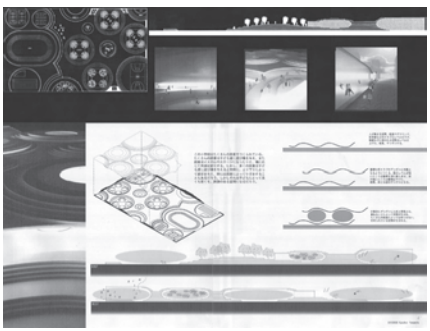
Miyuki Sakurai



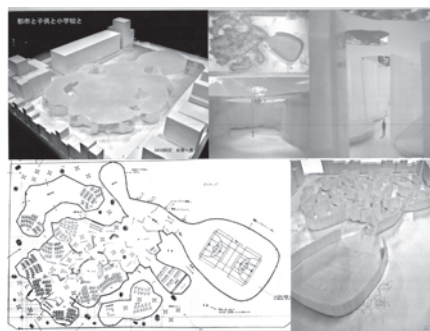
Yuki Sekiya



Takeshi Jono



Kyohei Yamamoto

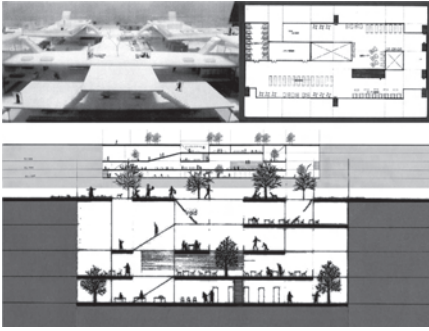


Kazuma Sugihara

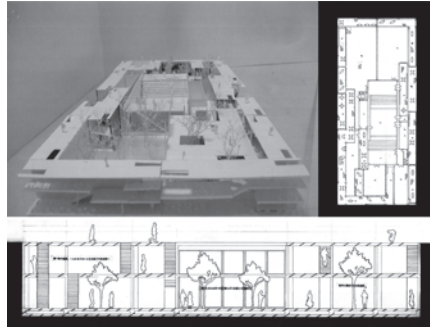


Yasuyuki Furuta

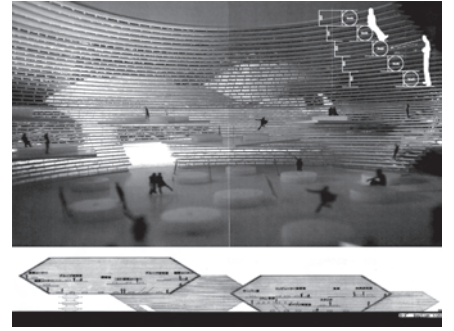




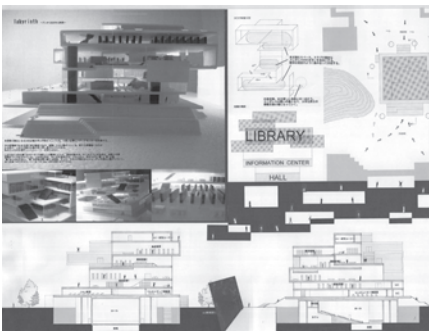
Ai Matsuno



Kazuma Sugihara

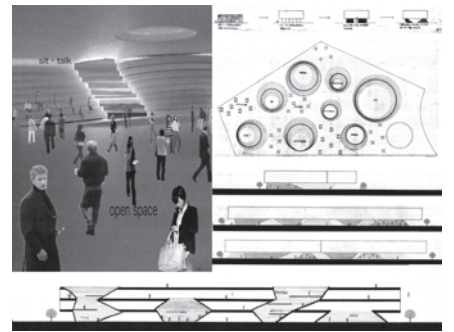


Yasuyuki Furuta

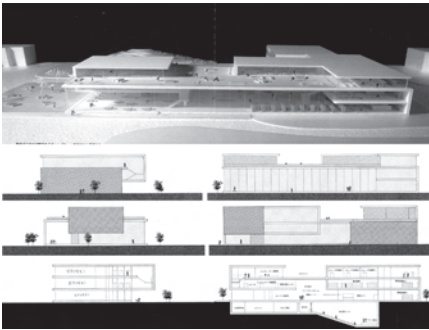


Takeshi Jono

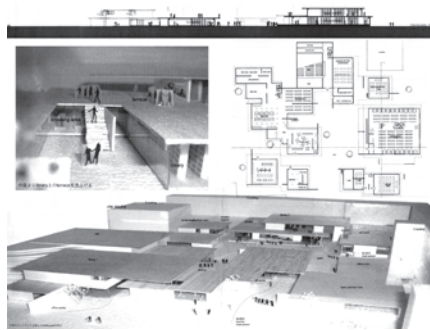
## メディアセンター



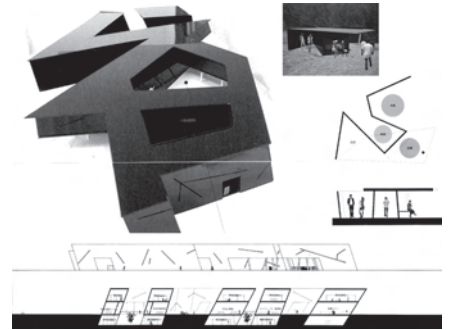
Eiji Motokawa



Yuta Yanagawa



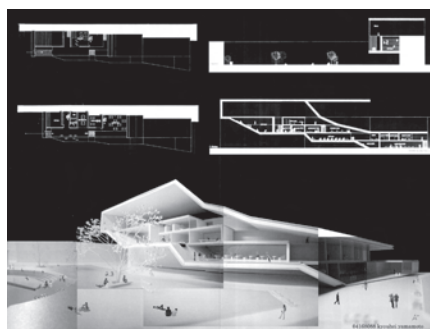
Asuka Une



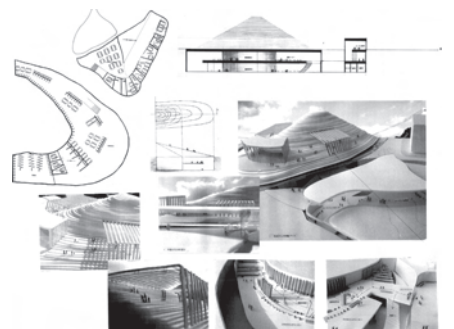
Yasutaka Miki



Tomonori Asami



Kyohei Yamamoto



Miyuki Sakurai



# 01. 白の庭～地方都市の再構築～ WHITE GARDEN -Reconstruction of a local city-

荻田 真士  
OGITA Mao

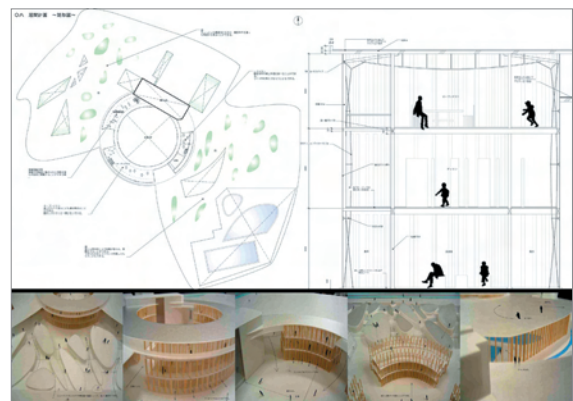
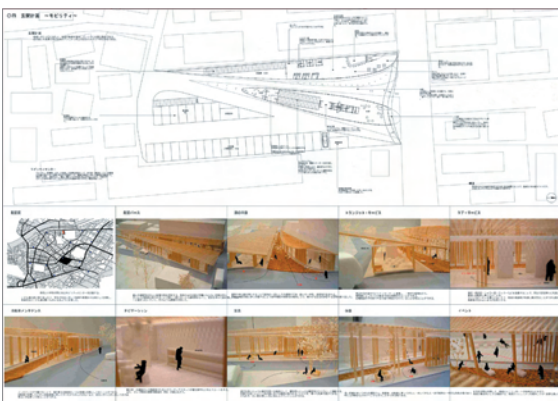
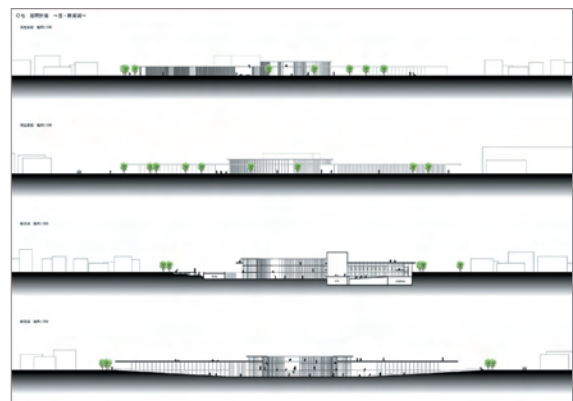
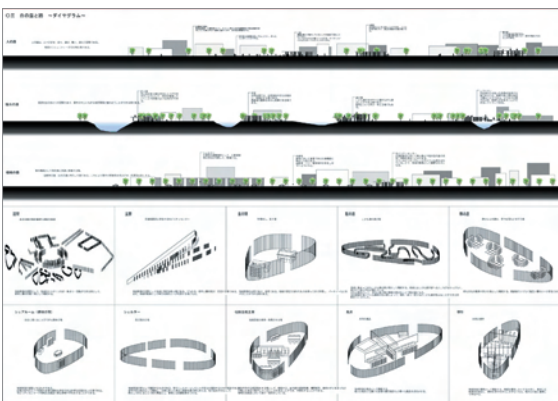
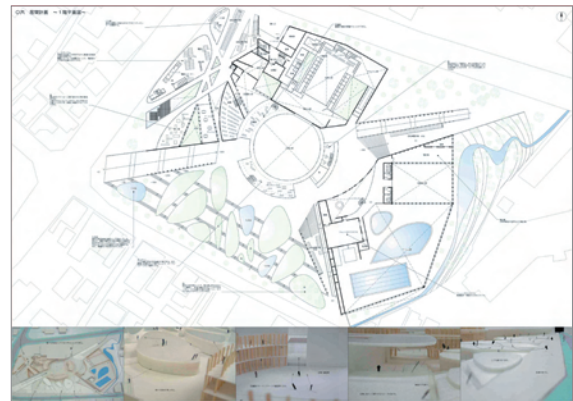
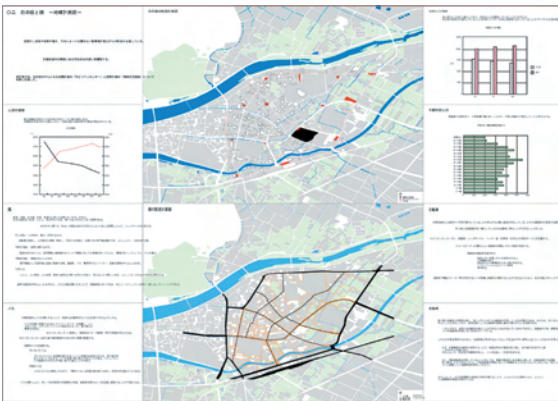
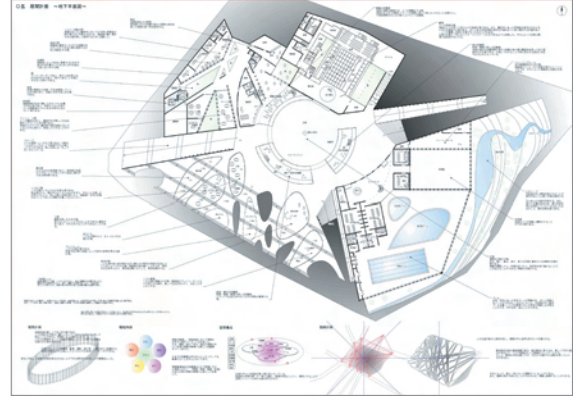
建築材料研究室

地方都市は郊外化により、中心市街地の空洞化が進行している。そのため、空地が増え、コミュニティを維持していくことが困難になってきている。

本計画は、都市に不用になっている空地を路によってネットワーク化し、豊かな地

域家庭を築き上げようとするものである。

『白の庭』と『路』が連続してつながり、個々のポテンシャルが引き出される分散集中型の庭を計画し、地域のアメニティ向上及び人々の交流が活発になることを期待する。







## 02. Promenade ~開かれた縁側の空間~ Promenade ~space of a porch opened life~

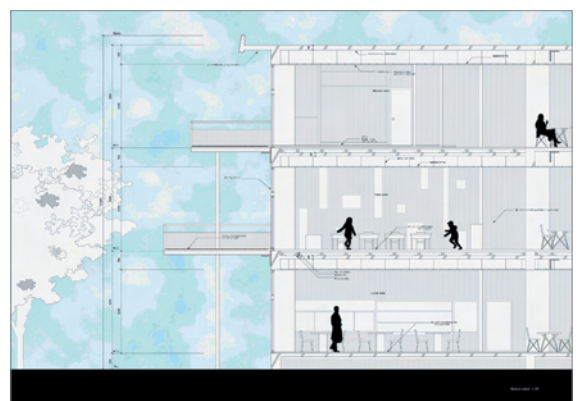
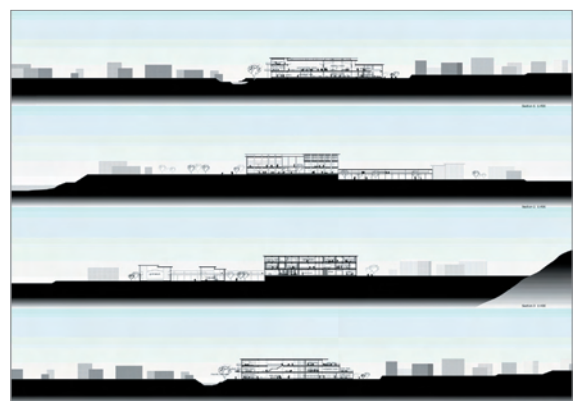
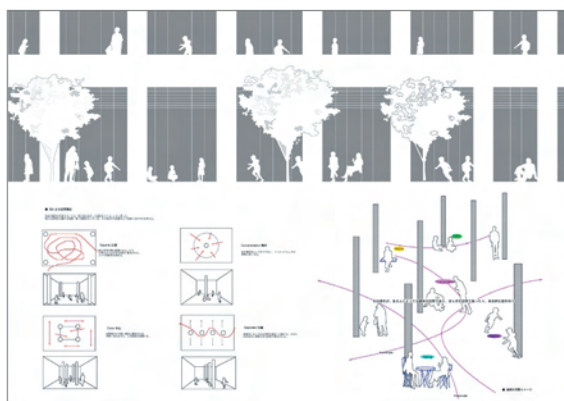
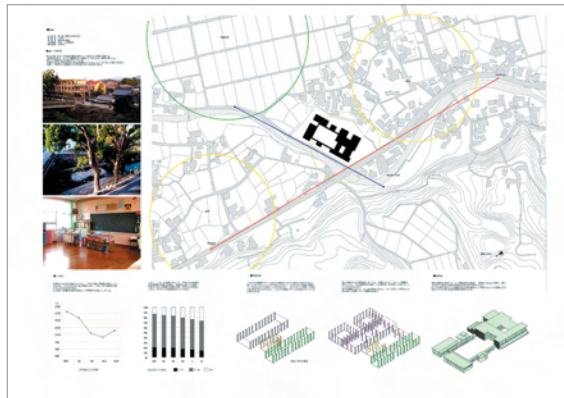
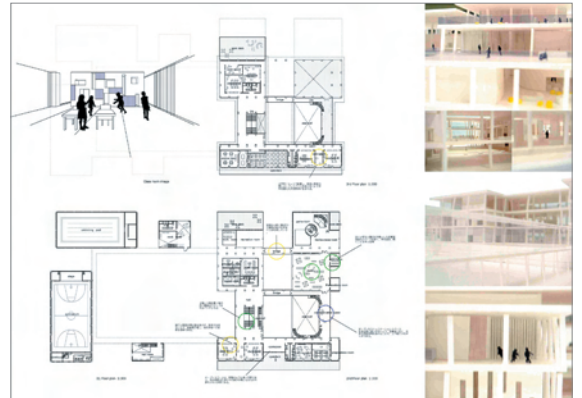
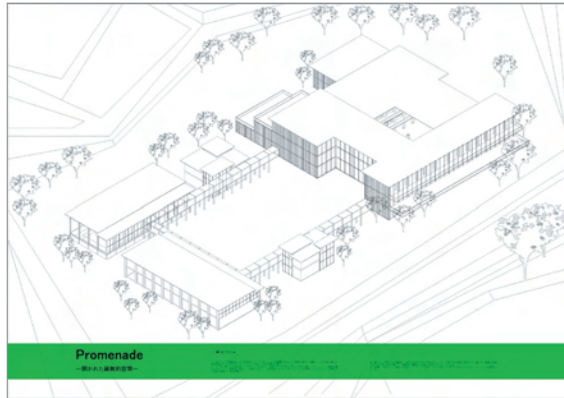
角田 絵美  
KADOTA Emi

建築材料研究室

人口減少という問題を抱える山間地域では、少子化による一定規模を前提とした教育活動や、高齢化による伝統行事など地域活動の不成立を招き、さらなる人口の減少、地域の衰退が懸念されている。

そこで本計画では、山間地域ならではの

よさを活かし、地域の中心的存在である小学校を Refine することで、教育複合施設として再生させ、“山間地域における小学校のカたち”を再考し、プロムナードに開かれた地域の縁側の空間を提案する。





### 03. 「波紋」～岡山駅の再開発～ 『hamonn』～Re-development of the Okayama station～

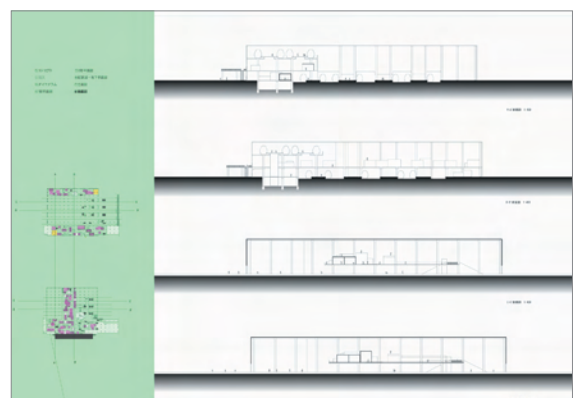
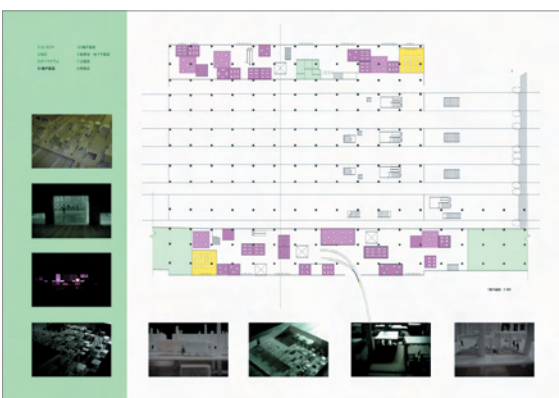
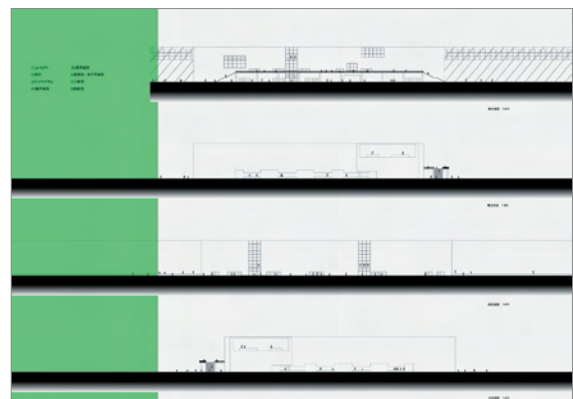
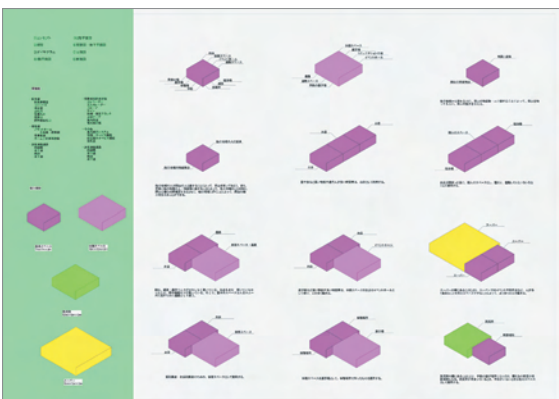
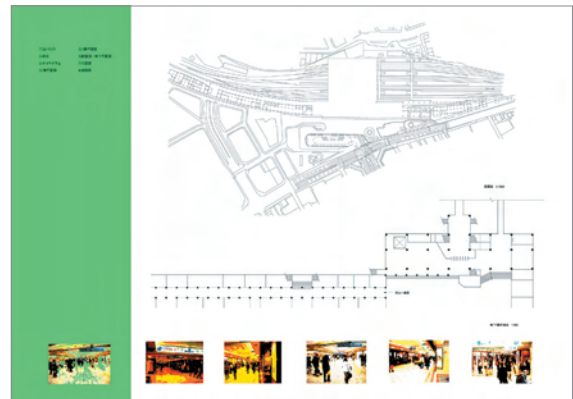
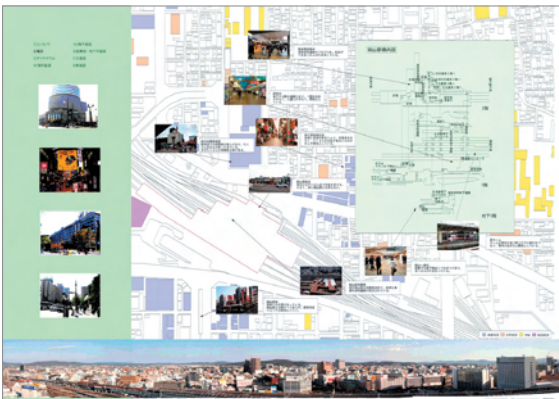
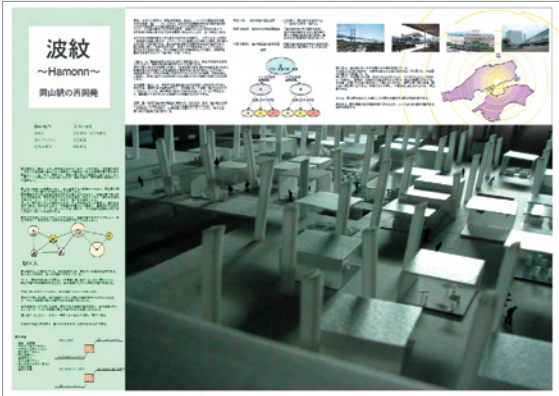
石戸 今日子  
ISIDO Kyouko

都市計画研究室

現在、日本では現行の「都道府県制」を廃止し、いくつかの都道府県を合わせた地域、「道」・「州」に分け、広範な行政機能を持たせた地方自治体に地方分権を持たせる道州制を導入しようとする動きがある。

これは、岡山駅を起点にし、州都として

の岡山」を確立する岡山駅の計画である。これまで以上に人が集まり、行き来し、経済的・社会的にも自立し、地域のアメニティ向上及び人々の交流が活発になることを期待している。







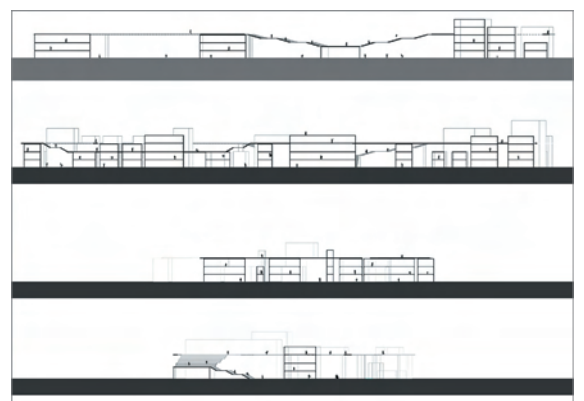
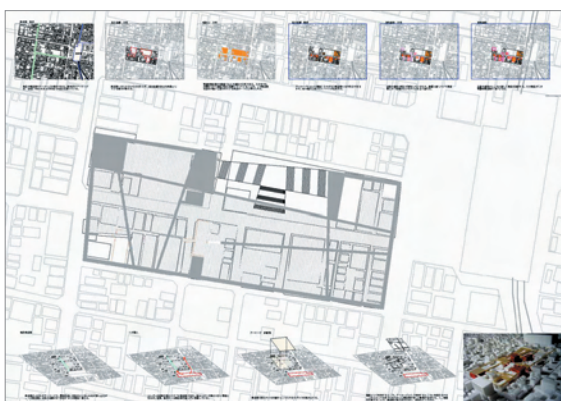
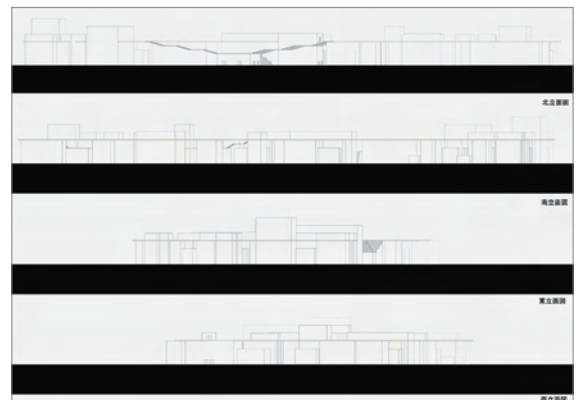
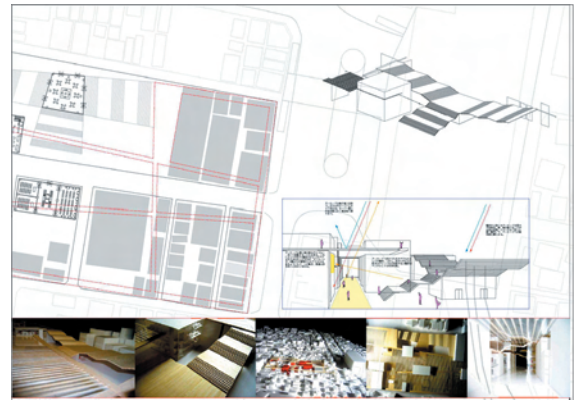
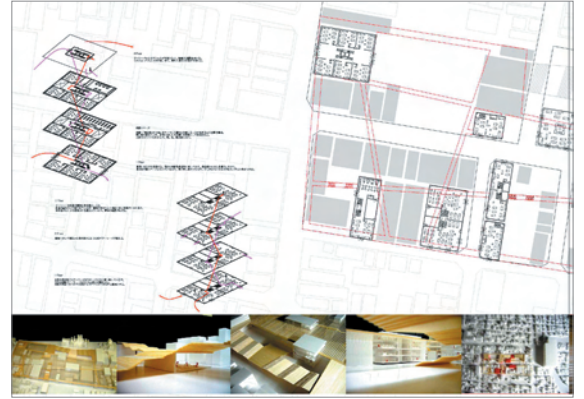
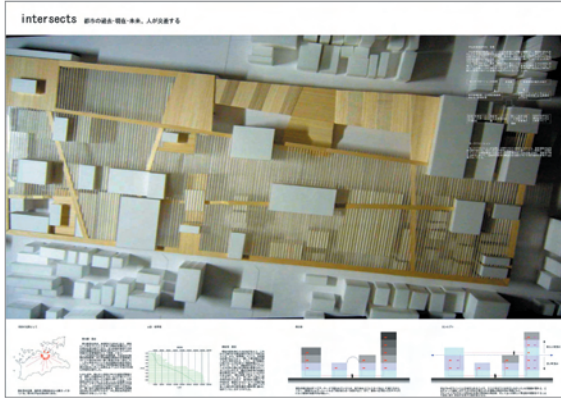
## 04. intersects / 都市の過去・現在・未来、人が交差する intersects / The person will intersect in the past, present, and the future of the city

大野 直美  
OHNO Naomi  
都市計画研究室

この計画は、高松市の中心市街地をコンパクトに集約することによって、高齢者にとって住みやすいまちをつくり、都心居住を促進するものである。

現在高松市にある商店街は、一階からしかアクセスできず、密度が低い。そこで、

メガストラクチャーを設置し、上部は新しい商店街の空間として提案、下部は既存商店街の趣を残しつつ、新築される建物との調合でまち並みを形成する。





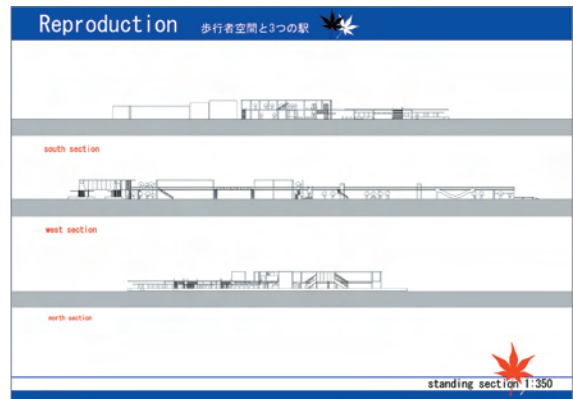
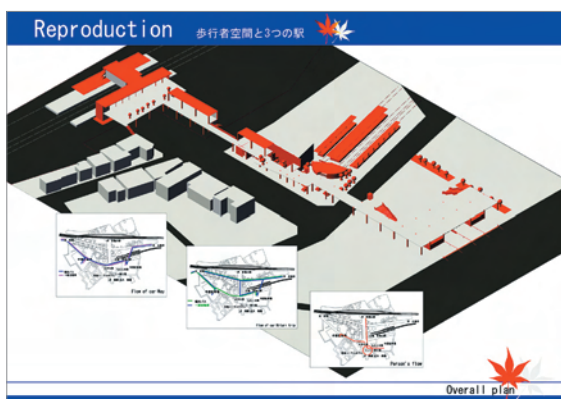
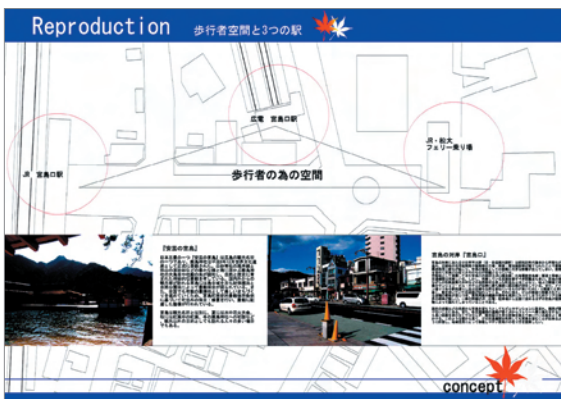
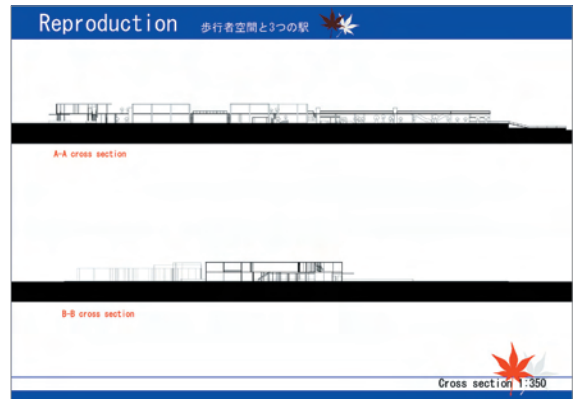
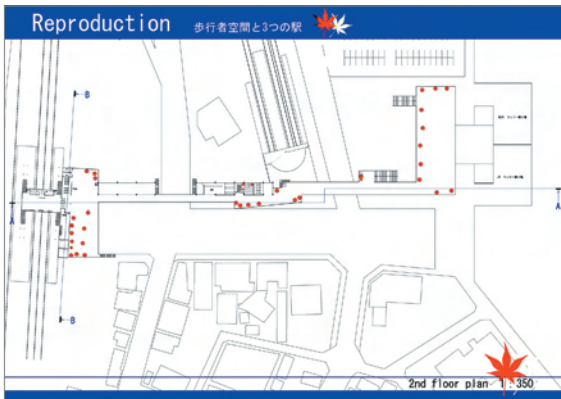
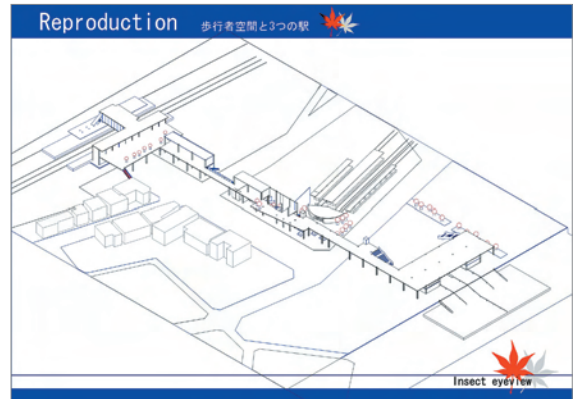
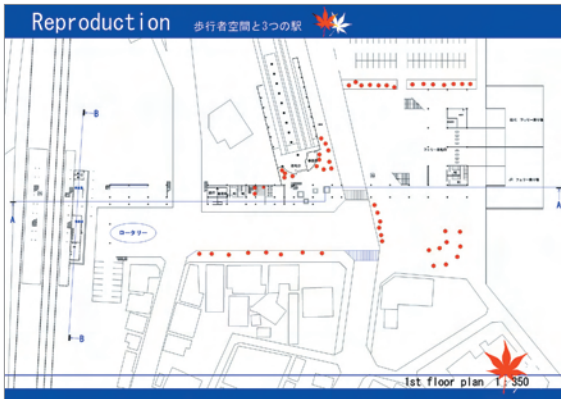
## 05. Redestrian ～歩行者空間と3つの駅～ Redestrian space and 3 stations

片口 久美子  
KATAGUTI Kumiko

都市計画研究室

現在の宮島口駅前通には書店・飲食店・陶芸のギャラリー・コンビニ・郵便局などが建ち並び、その建物の統一感がなく、歩道の幅も狭い。しかし、周辺の交通機関とのつながりを考えると、残せるものもある。

本計画では、メイン通りの西側にある店舗を残すこととした。そしてJR・広電・フェリーの三つをつなげることで、移動のしやすさと安全性を確保し、宮島を望めるように計画を行った。





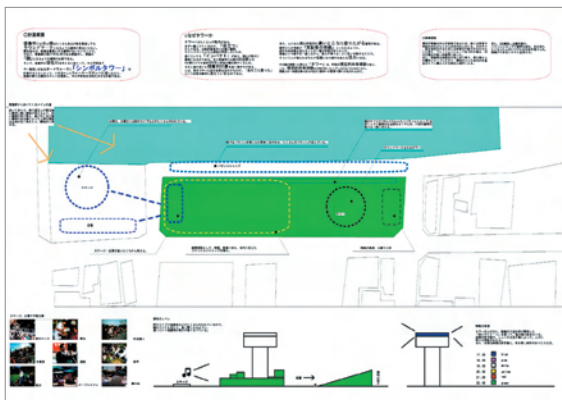
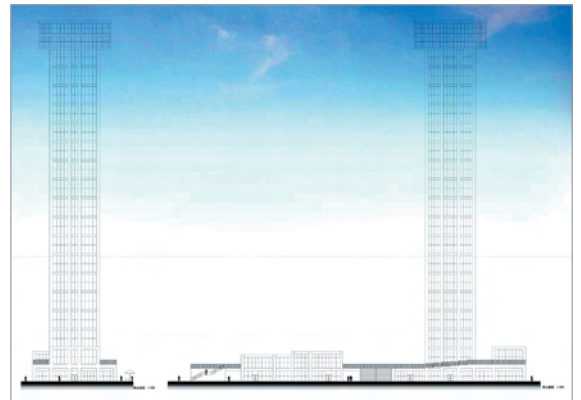
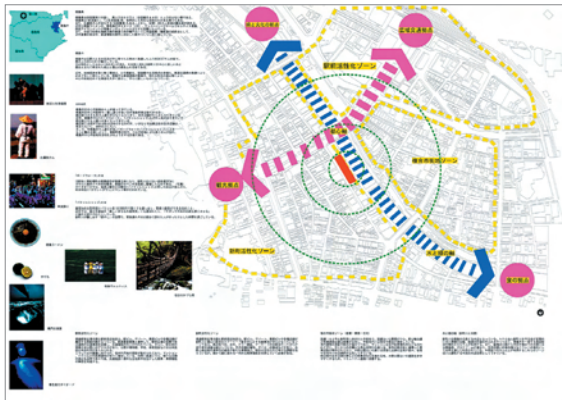
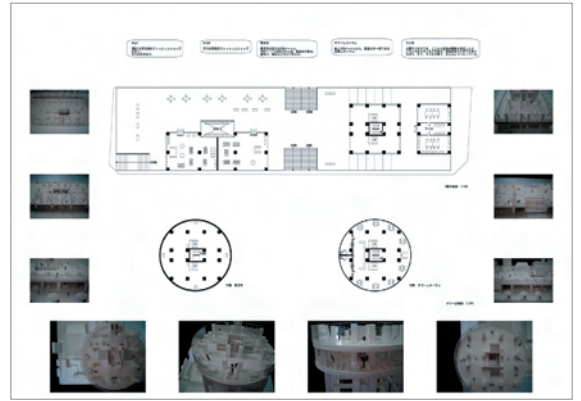


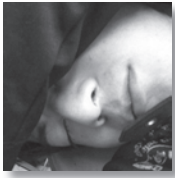
## 06. 徳島タワー TOKUSIMA TOWER

山田 貴仁  
YAMADA Takahiko  
都市計画研究室

徳島市の中心商店街は、年々人通りが減り空き店舗が急増している。また、徳島市には水と緑はたくさんあるが、街を見渡してもランドマークとなるような建築が見当たらない。そこで、徳島市に徳島の「顔」となるような建築が必要であると考えた。

徳島市の中心市街地で今一番勢いのある東船場町ボードウォークに「シンボルタワー」を提案する。また、「徳島の顔」となるような新たな観光スポットを設置することで、中心市街地を活性化させる計画を行った。





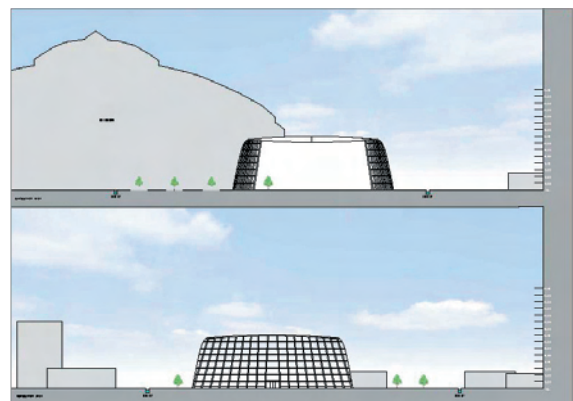
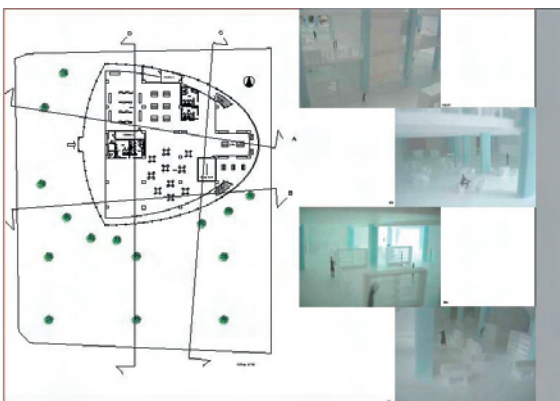
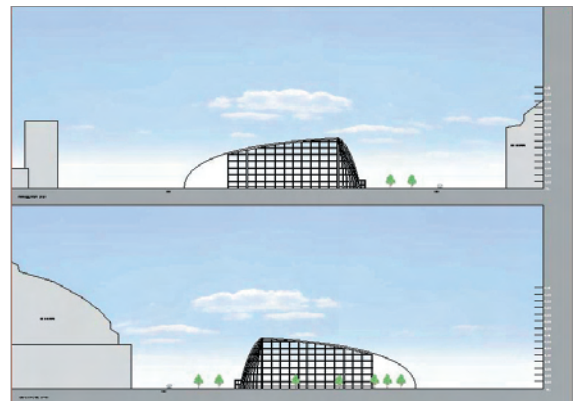
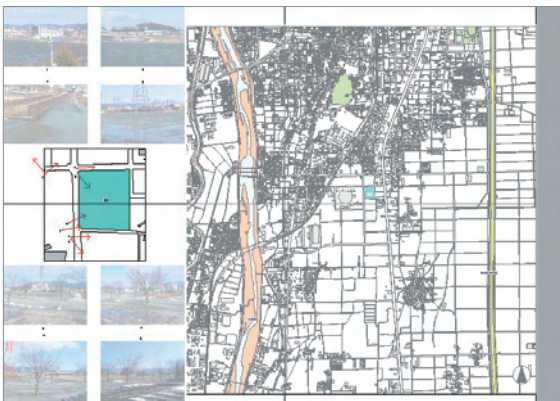
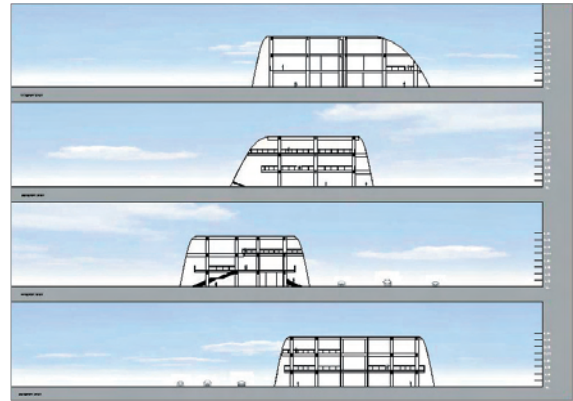
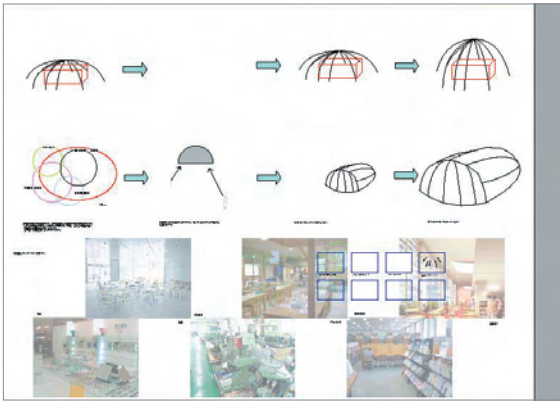
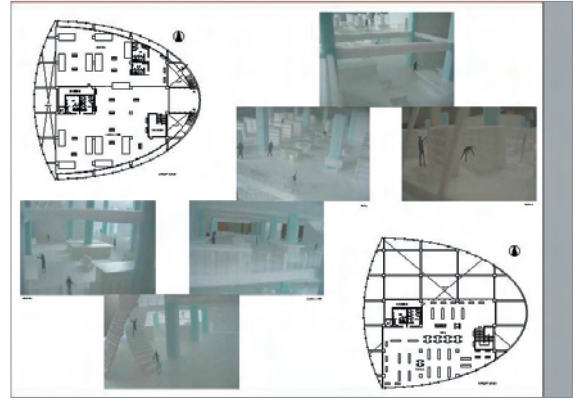
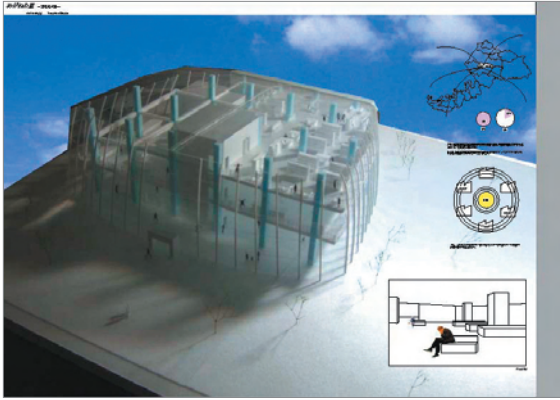
## 07. メガネの里～再活性化の器～ Home Village for Glasses

大塚 康弘  
OHTUKA Yasuhiro

建築歴史研究室

福井県鯖江市は、眼鏡枠産業が盛んであるが、近年は海外産の安い商品に押され、窮地に立たされている。そこで、眼鏡枠とともに「何か」を発見し・発信し、眼鏡枠産業を支えていけるような産業の体験・見学施設を計画した。

施設には、眼鏡に使用される多種多様なガラスを用い、その視覚的効果をプランに取り入れた。この建築が産業を保護し、活性化させ、人々の安らぎの場所となり、ここに住む人々に快適な時間をあたえられることを期待する。







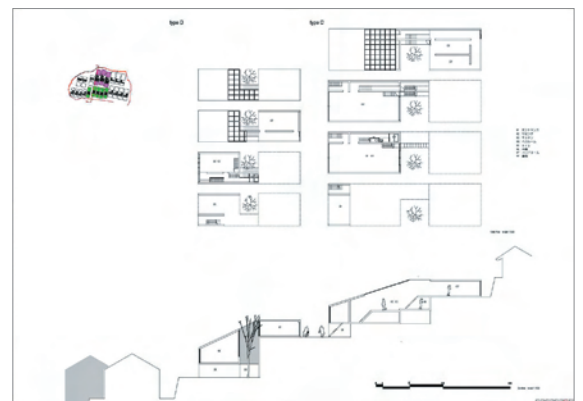
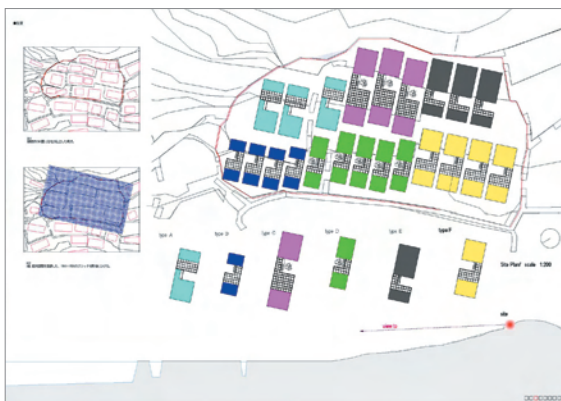
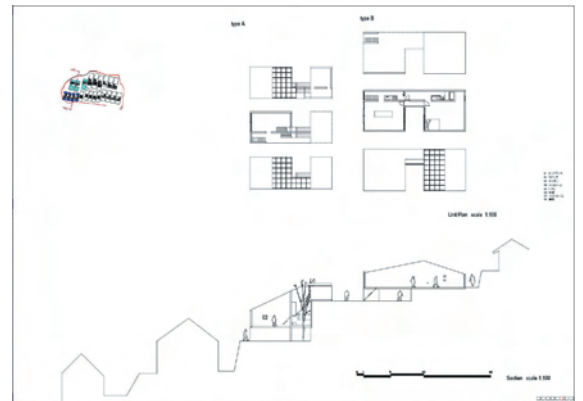
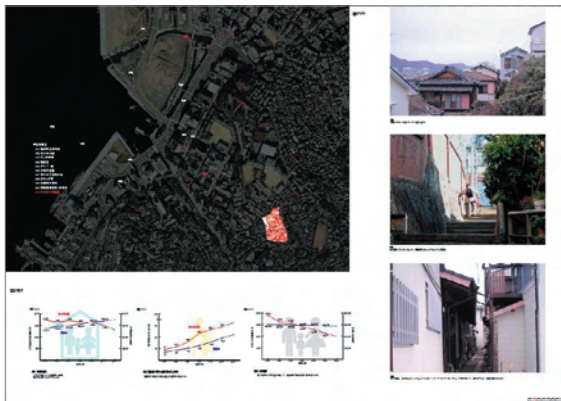
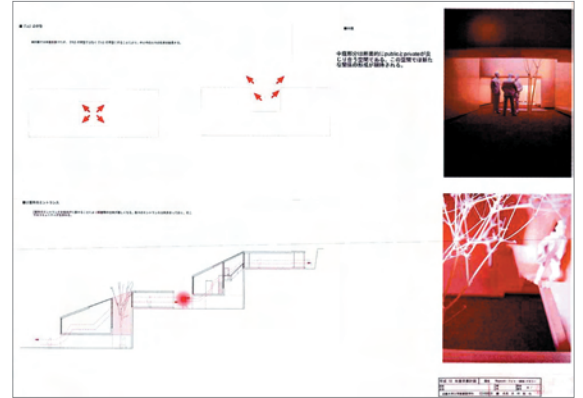
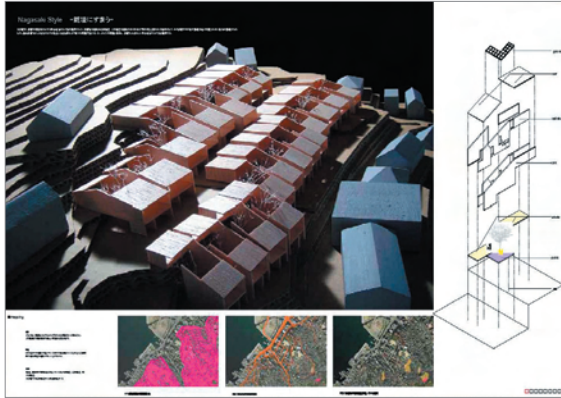
## 08. 斜面における集合住宅の提案 Nagasaki Style -Living on a tiered-

大村 拓也  
OHMURA Takuya  
建築歴史研究室

長崎の雑壇上の斜面に着目し、段差を生かすことによる、斜面の住まい方の提案である。元町地区周辺は、坂によって作り出される他にない独特の景観を持っている。しかし、斜面にひしめき合うように乱立した計画により、住民の高齢化、建物の老朽

化、災害時の問題などが生じている。

本計画では、斜面地に対して垂直方向にも動線をつくることにより、よりフレキシブルに動線の交わり合う集合住宅をつくった。これにより、長崎市がより魅力的な地域となることを期待する。





# 09. 解放区~境界線から生まれる空間~ Jiefang District ~Space comes from boundary line~

工学会賞 2 席

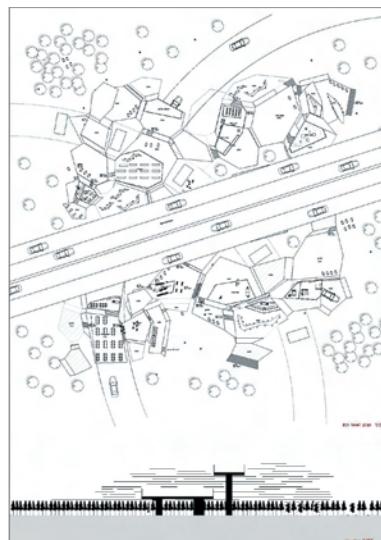
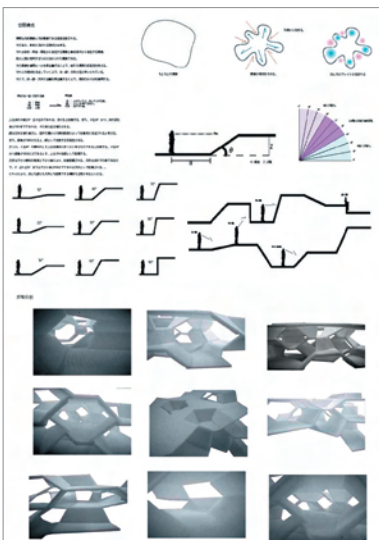
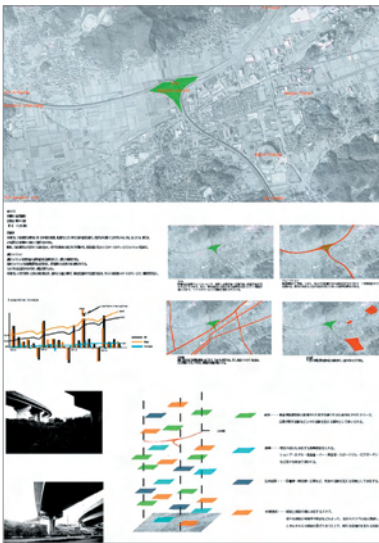
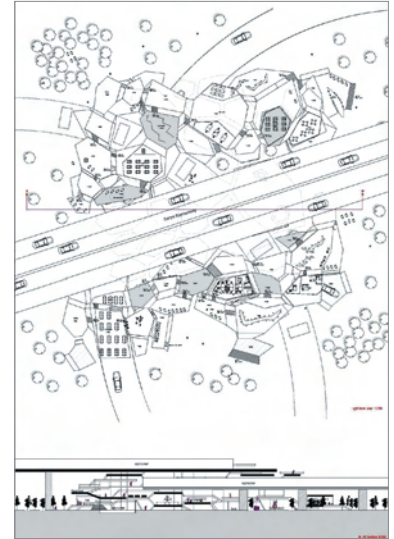
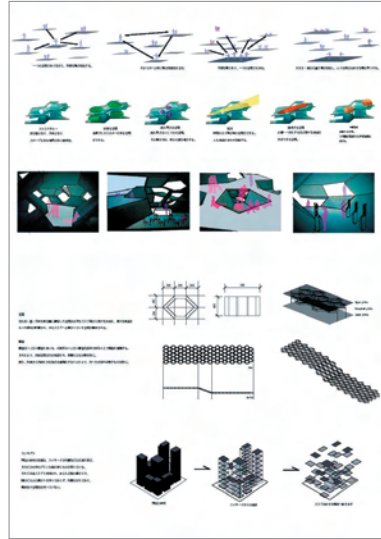
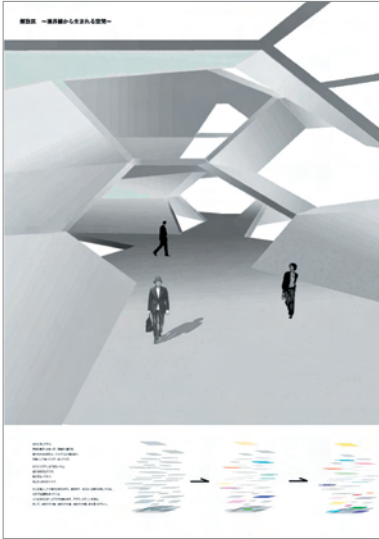
佐藤 悠馬  
SATOU Yuma

建築歴史研究室

都市において失われつつある場所性・空間性を、商業複合施設として再帰構築する計画である。この建築空間は、床・壁・天井を再定義することによってできる、一つの空間の提案である。特に壁の傾斜・高さにより領域が大きく変化するなどから、空

間構成方法において、新たな可能性を見出せるのではないかと考える。

また、都市の中で非日常的な空間を体験することで、日々変化していく空間の質を感じ取り、空間性・場所性が回帰することを強く期待する。







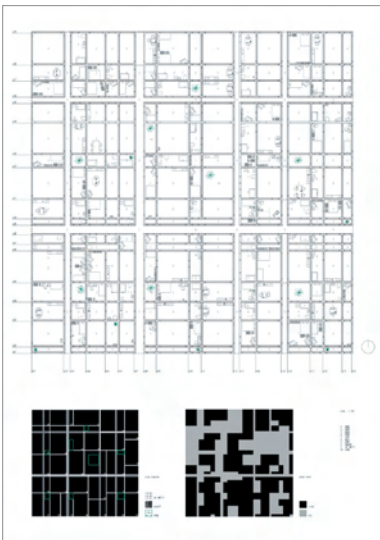
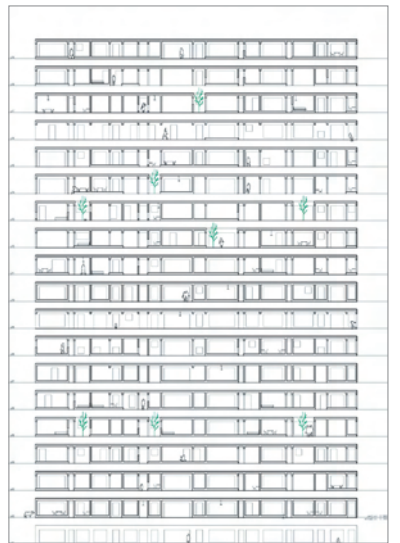
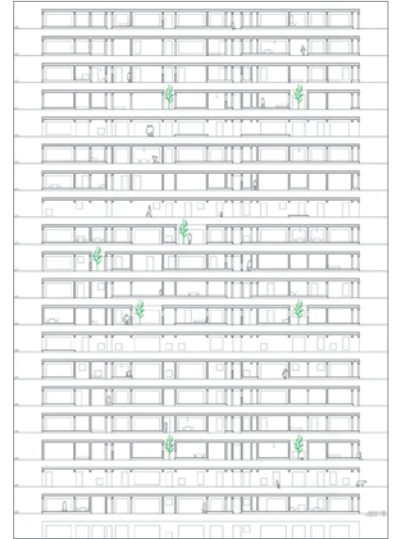
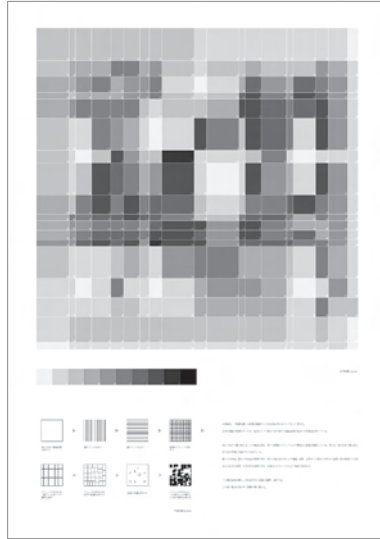
# 10. 陰翳礼讃を超えて～暗闇の住まい～ Beyond the INEIRAIKAN - A house in the bark-

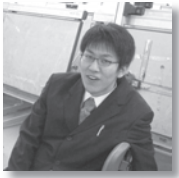
工学会賞3席

高田 耕平  
TAKADA Kouhei  
建築歴史研究室

食寝分離、狭小で合理的な生活を目指し計画された51C型。それに変わる現在の集合住宅の住まいとして、「陰翳礼讃」をもとにした住まいを提案する。計画した集合住宅は50㎡四方の平屋建であり、縦横のグリッドで構成される田の字型の平面は、多

様な機能の室の連続により構成される。現在、住まいに求められているものは空間の質だと考えた。そこで、陰翳礼讃という文学的な暗闇の空間を建築で表現した。陰影のなかに美がある。本計画を通して、暗闇について再考してほしい。





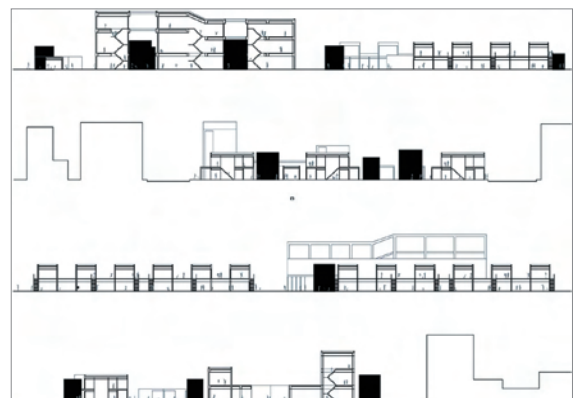
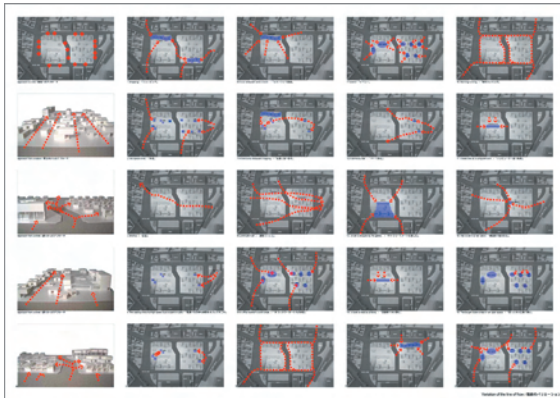
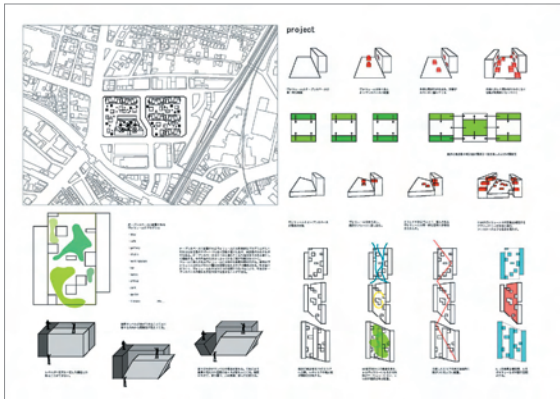
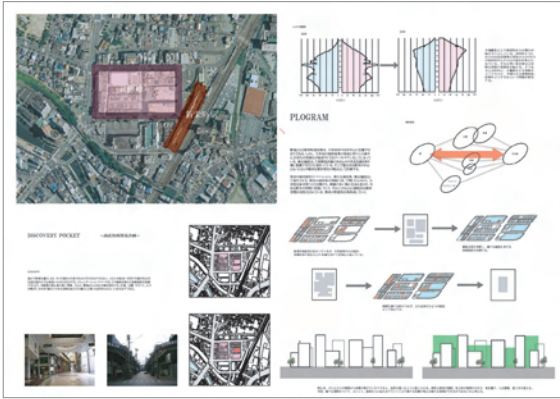
# 11. Discovery Pocket ~商店街再開発計画~ a redevelopment project of shopping street

田原 康啓  
TAHARA Yasunobu

建築歴史研究室

福岡県の大牟田市新栄町商店街再生計画である。駅前という多種多様な人が大勢行き交うという立地条件を生かし、公園や図書館など様々な機能を有する商業施設を計画し、新しく商店街を建て直す。それと共に人口減少や経済の変化など様々な要因に

より不要になる建築施設、店舗、空き家などの問題を解決する。本計画により新栄町商店街は今までとは違う新しい動線をもつ商店街、施設として生まれ変わる。人々はその中で様々な居場所や風景をdiscoveryする。





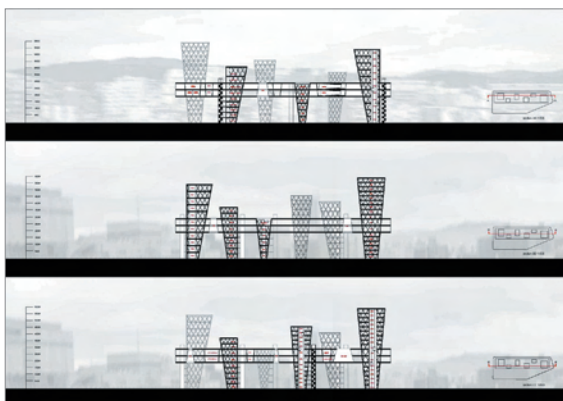
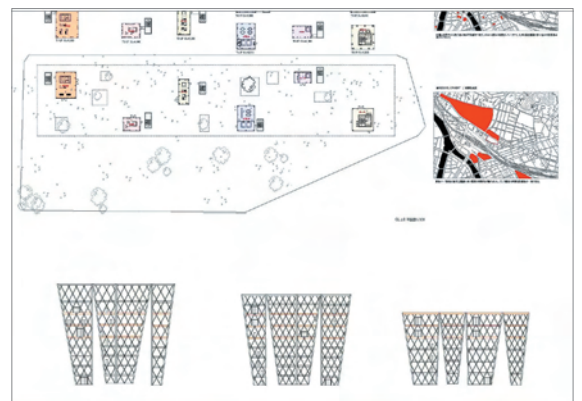
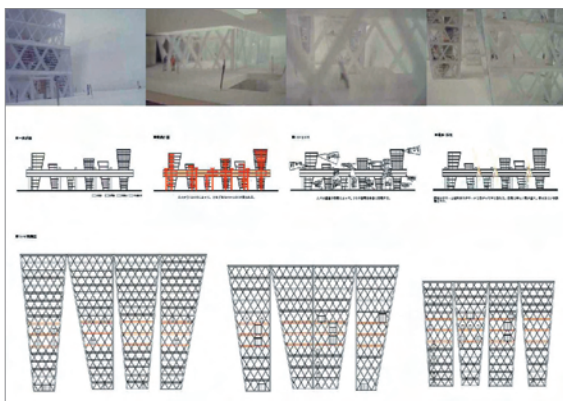
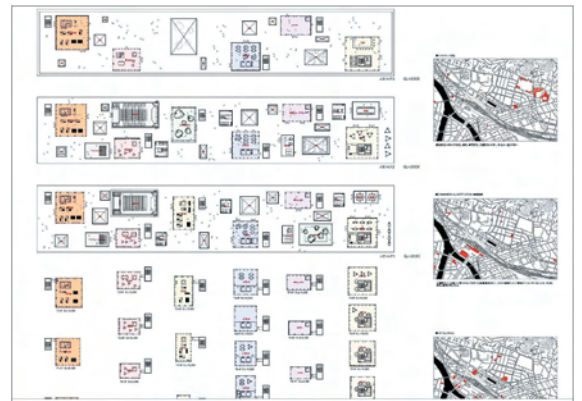
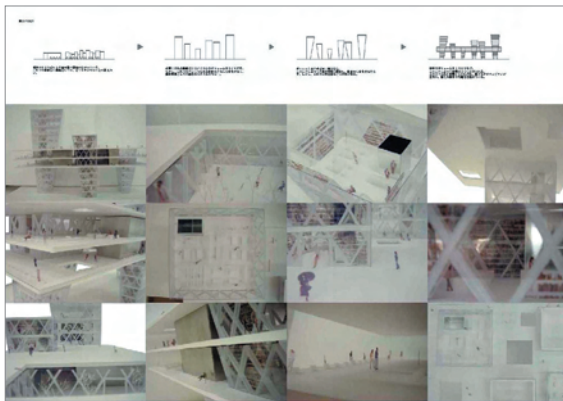
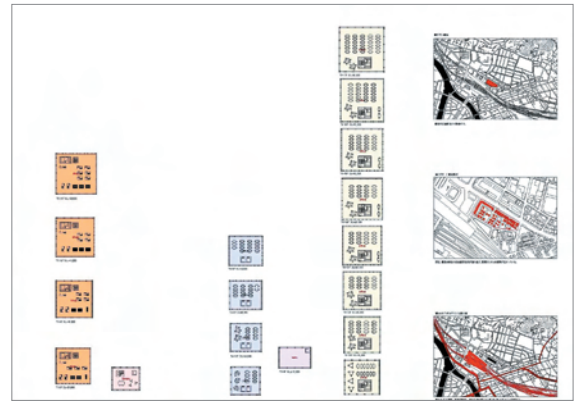
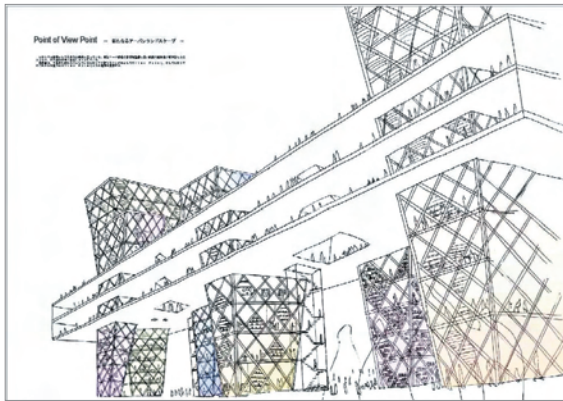


## 12. Point of View Point ~新たなアーバンランドスケープ~ Point of View Point ~ New Urban Landscape ~

塚本 哲也  
TUKAMOTO Tetuya  
建築歴史研究室

ヒロシマは都市として大きな分岐点に立っている。貨物ヤード跡地の新球場整備に伴い駅前のおさいかいはつが動き出し、その姿を大きく変化させようとしている。しかし、今やどの都市にも高層の建物があふれかえている中では、それ自体がシン

ボルとなりえることは難しく思う。本計画では、生まれ変わろうとするヒロシマに、新たなシンボルとしてのview point、そしてヒロシマのこれからの見つめるview point となる建築を提案する。







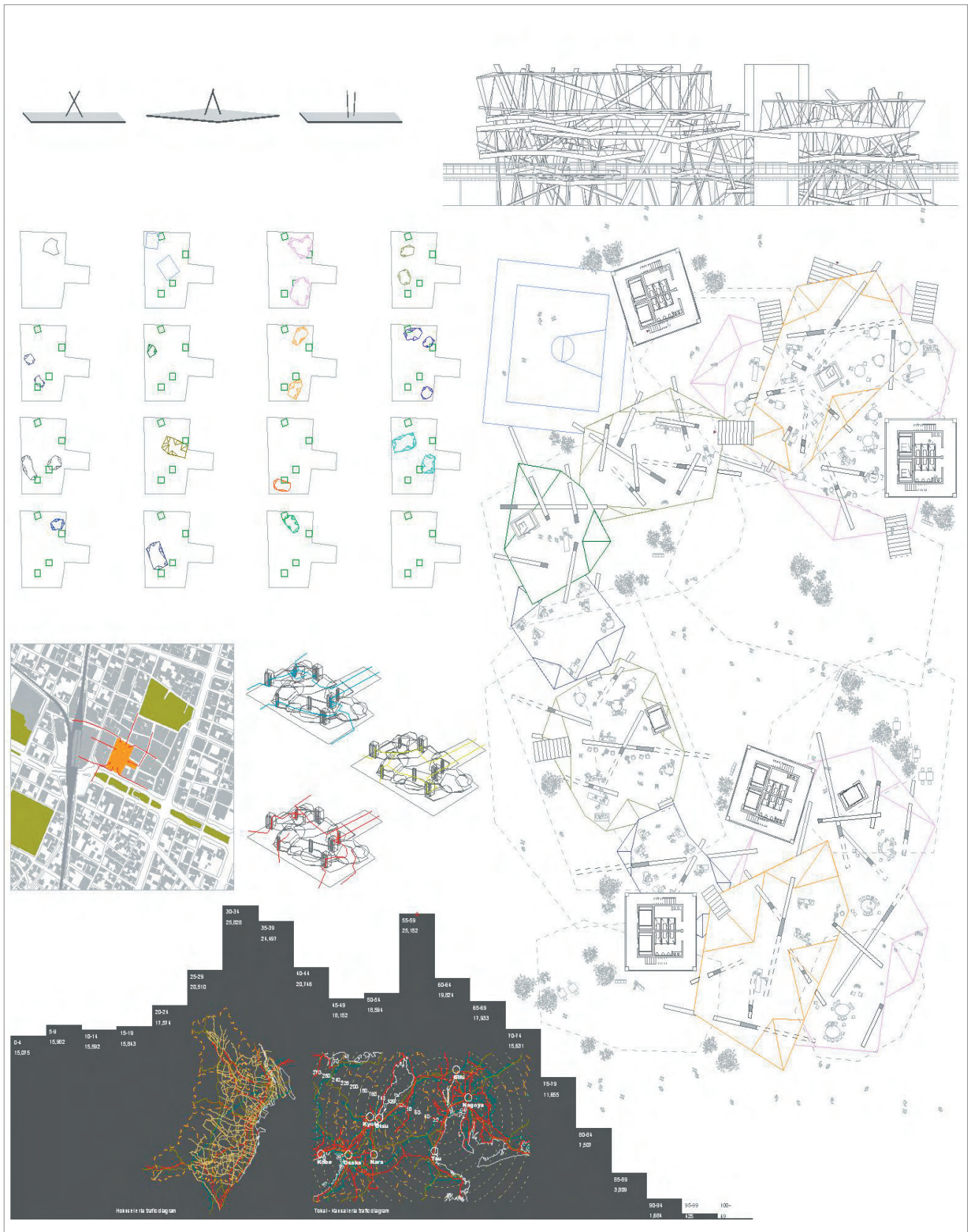
### 13. ハシラとハシラとそのアイダ —視覚操作で生まれる空間— The space which is made between a pillar and pillars — The space that is created sight operation —

松井 俊樹  
MATUI Tosiki  
建築歴史研究室

天井、床の傾きや、柱の傾きによって視覚的に空間を領域として認識させ、壁で完全に空間を分けるのではなく、人が感覚的に柱と柱の間に感じる空間や領域で全体を構成した建築空間を提案する。

床、天井、壁に角度を持たせることによ

り、視覚的に空間領域を分けることができ、連続した空間で生まれるアクティビティを生み出す。この新たな建築空間により、計画敷地となる四日市市民の活動の場となることを期待する。







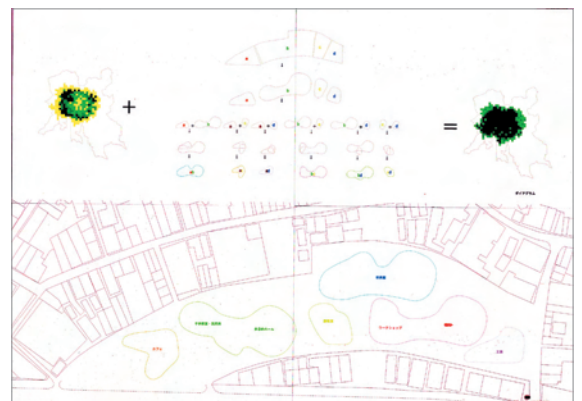
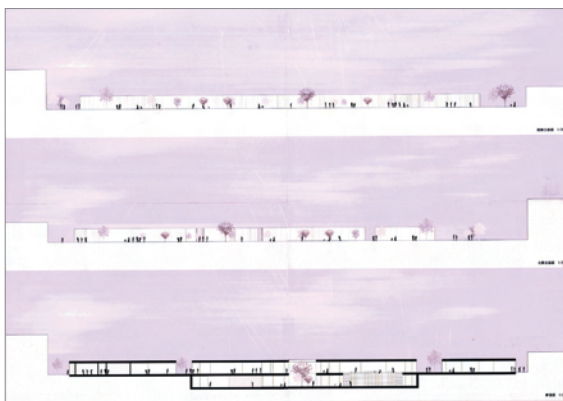
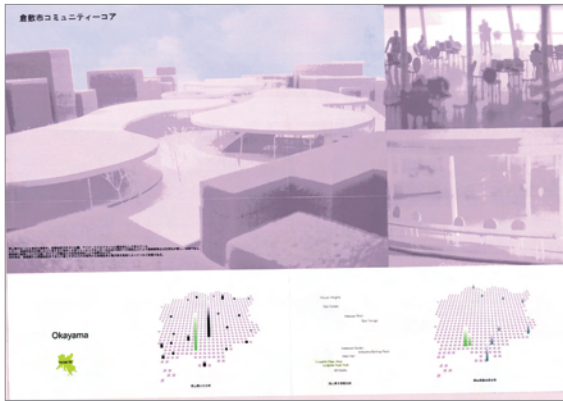
# 14. Life long Learning / 倉敷市中心街再生計画

## Life long Learning

森下 理華  
MORISITA Rika  
建築歴史研究室

空洞の中心である倉敷駅前商店街地区に、商業施設以外の何か建築要素を入れることで、倉敷市中心市街地を再生できないか考えた。そこで、都市の厳しい開発環境の中で、単に生涯学習施設としてだけでなく、近隣住民、倉敷を訪れる観光客が自

然と集まり、様々な活動や交流が行われる生涯学習を通じた交流施設を提案する。施設を訪れた人が充実した時間を過ごせ、倉敷駅、チボリ公園から美観地区を人の行き来でつなぎ、中心市街地を再生できないかを考えた計画である。







# 15. 建築への介入 ～路地の場合～ Intervene architecture

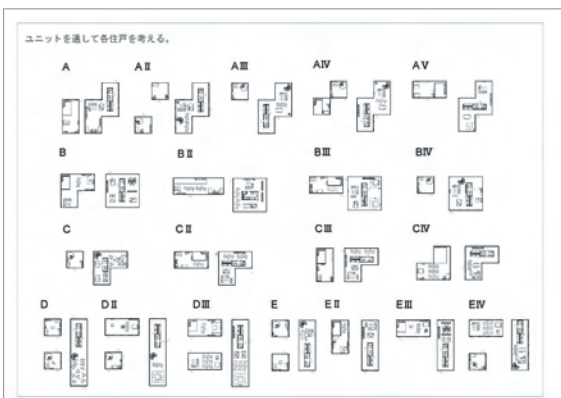
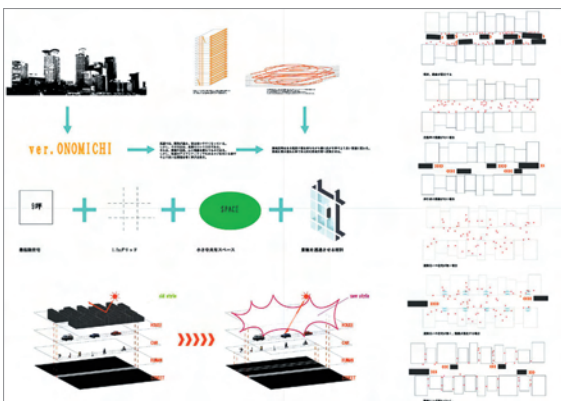
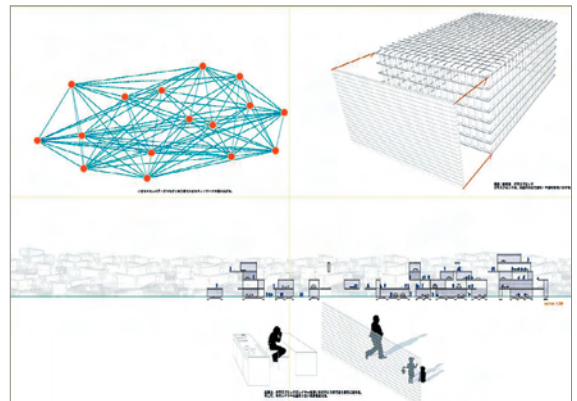
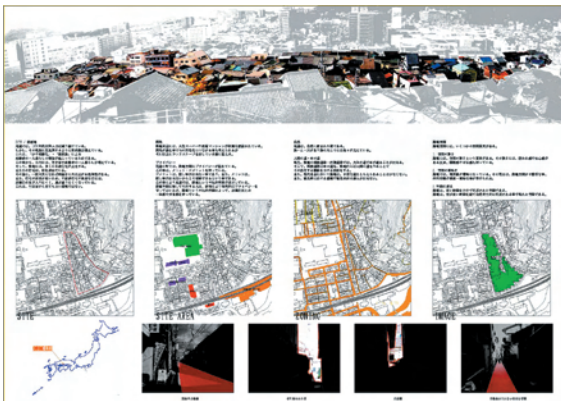
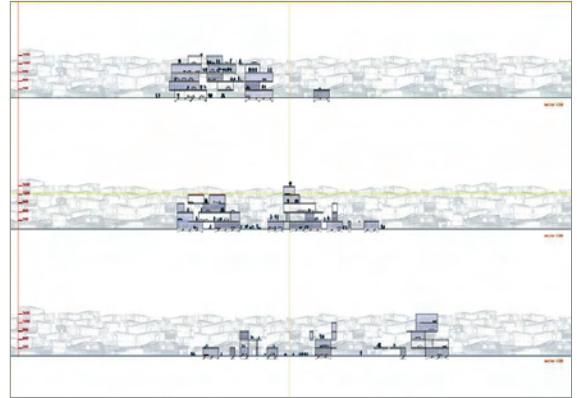
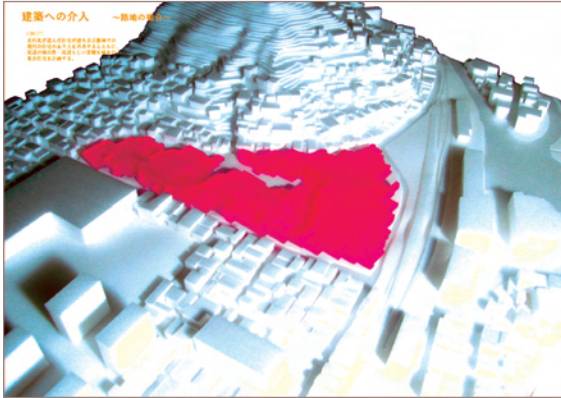
山根 央嗣  
YAMANE Hisasi

建築歴史研究室

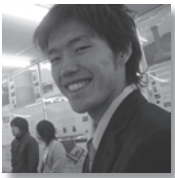
尾道駅北側の住宅密集地域において、尾道の独自性・風景を壊さない集合住宅である。敷地は、尾道の古い町並みを残す場所であり、近くに尾道駅があり、住宅を必要としている地域である。

本計画は、都市の過密を高層化で解決す

るのではなく、ある程度の層を持つことで経済性を補い、横に広がることで、流動的なコミュニティや、情報伝達をフレキシブルにすることを可能にする。







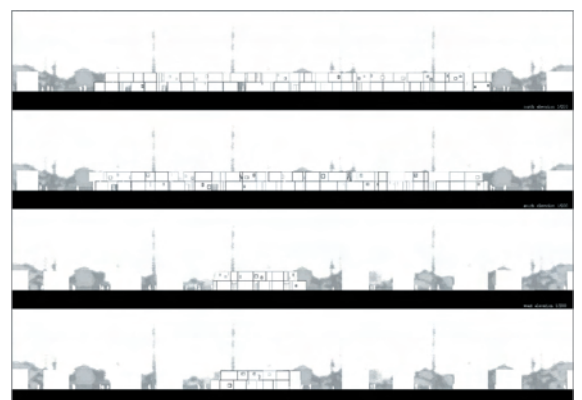
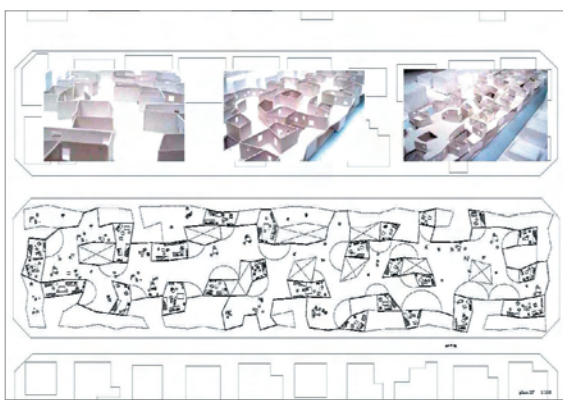
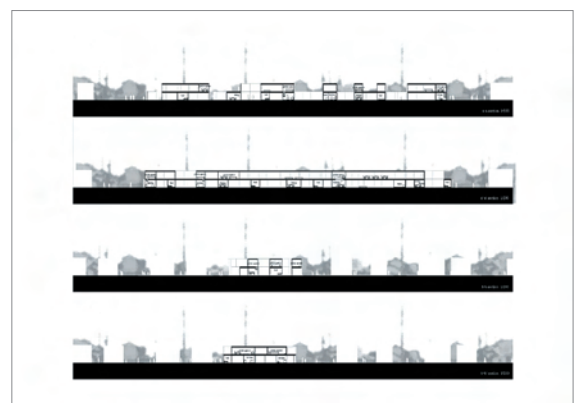
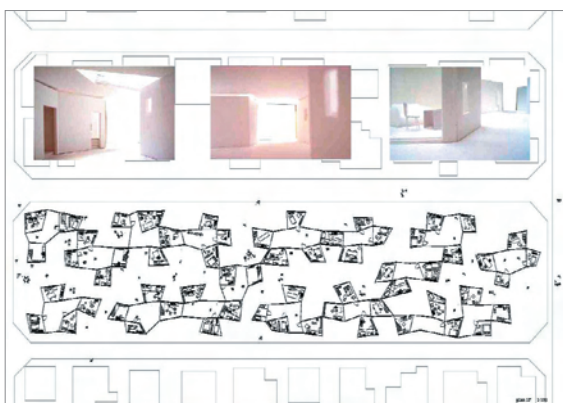
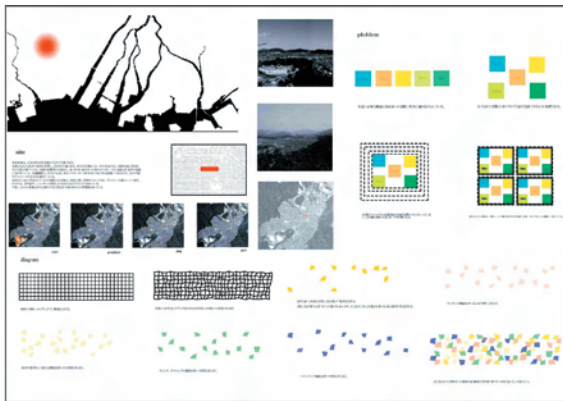
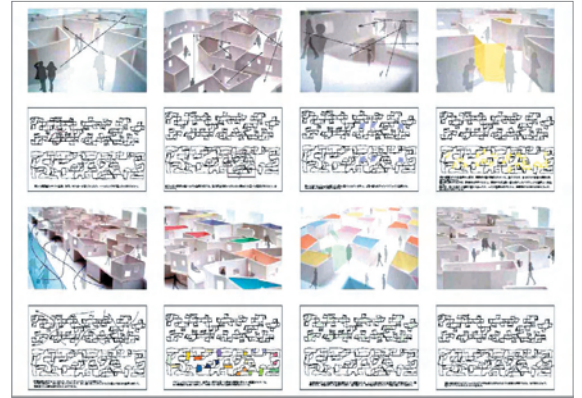
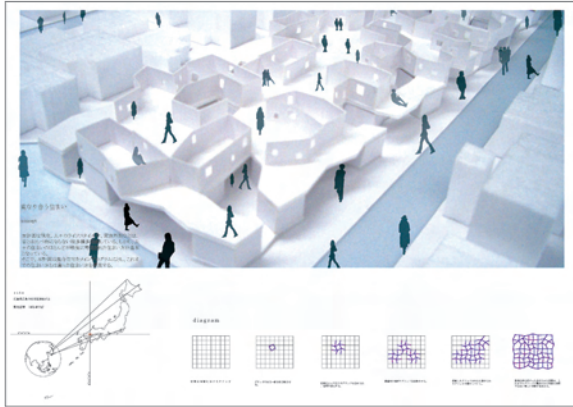
## 16. 重なり合う住まい Overlap house

米田 北斗  
YONEDA Hokuto  
建築歴史研究室

現在、人々のライフスタイルや、家族形態などは、多種多様化している。しかし、人々の住まいのほとんどが、戦後に考案された住まい方が基本となっている。

そこで本計画は、集合住宅をメインプログラムとし、これまでの住まい方とは違っ

た住まい方を提案する。決められた領域や決められた住まいの中では、人々の豊かな生活は生まれてくることはないだろう。この建築により、真に豊かな生活空間が住む人によって作られていくことを期待したい。



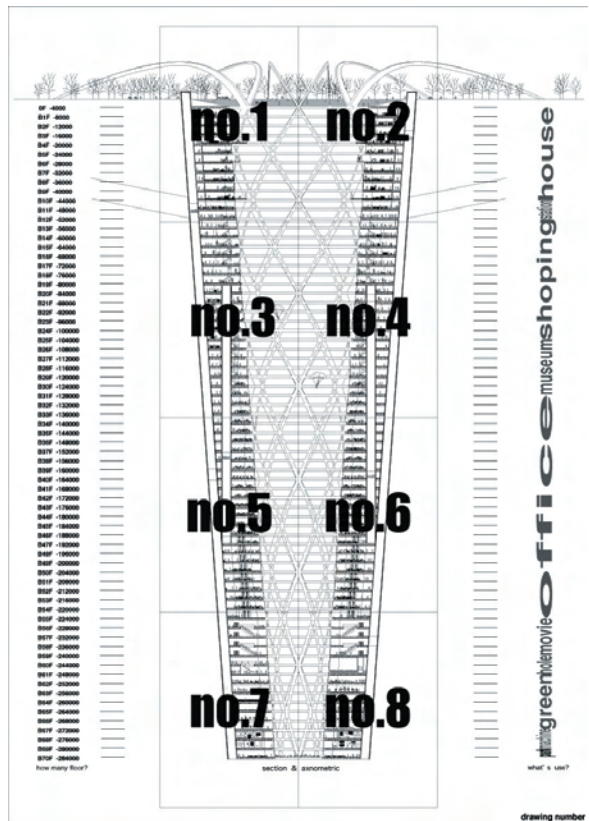
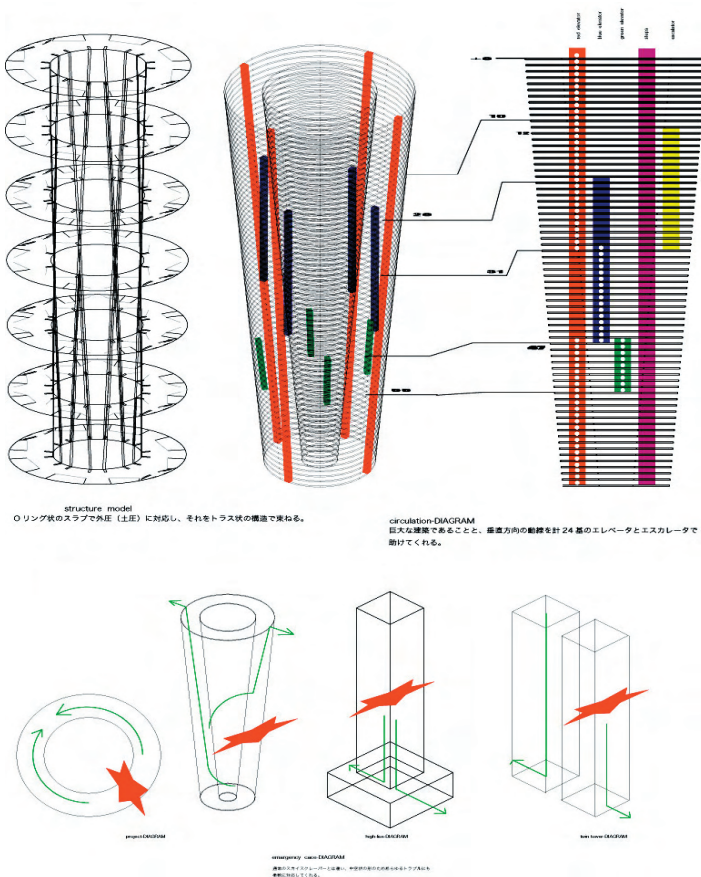
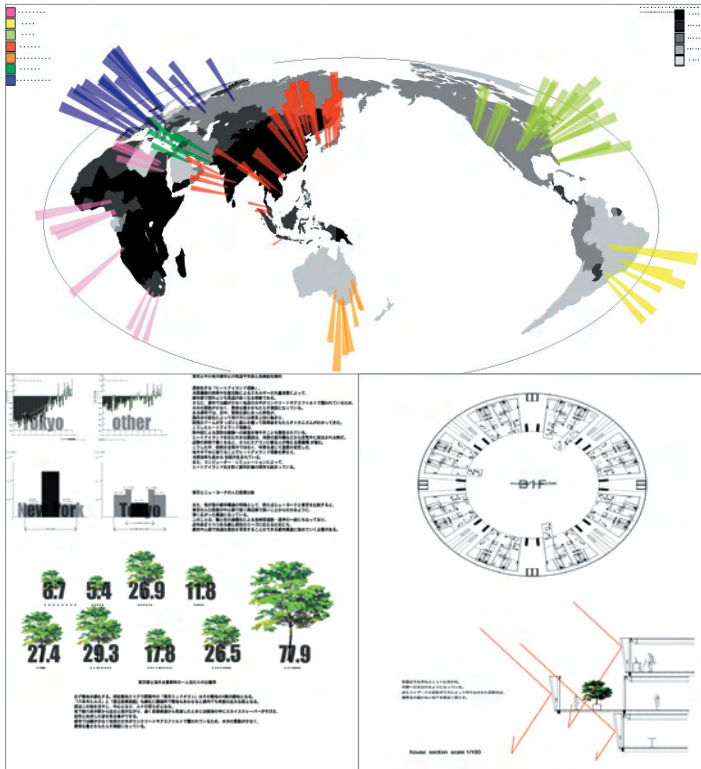


# 17. HUMAN & GEO SPACE —グランドラインの開放— -opening for Ground Line-

大塚 幸太  
OHYTUKA Kouta  
建築歴史研究室

本計画は、狭いエリアの中に「点」で進む再開発を地下で紡ぎ、面的に伸びる都市に対してグランドラインを開放する地下都市のモデルである。人間と地下空間を結ぶ地下都市とは、地上の全ての機能を求めるものではない。また、地下空間だけを独立

した空間とみなすものでもない。それは、地上と地下空間をうまく調和させた空間の創造である。地上のスカイクレーパーと地下のグラウンドクレーパーで作られる垂直の都市は、グランドラインを解放する。







18. ツールを生み出す ~高岡の存在する意味~  
I produce tools ~An existing meaning of Takaoka~

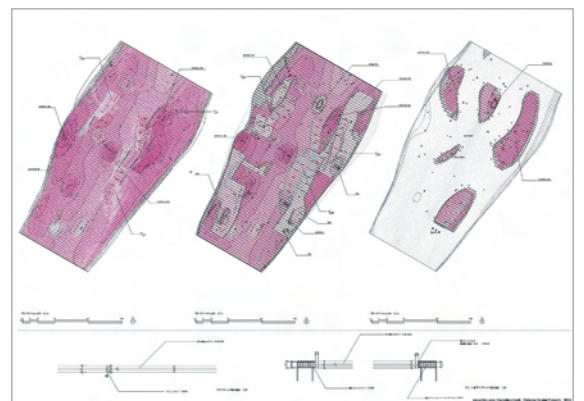
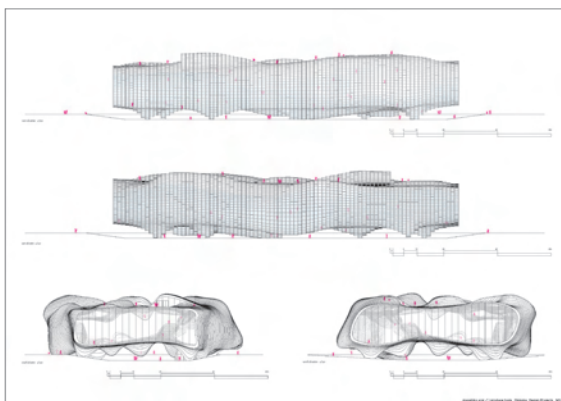
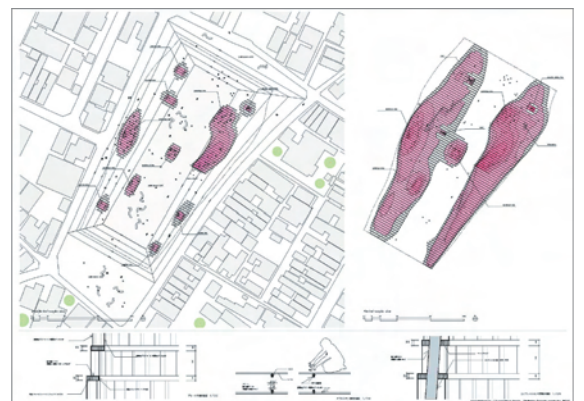
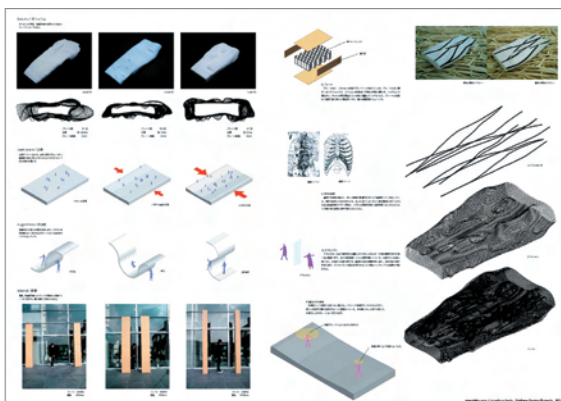
日本建築学会中国支部長賞

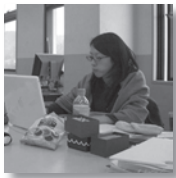
荒井 正彦  
ARAI Masahiko

建築意匠研究室

高岡の新ブランド「HiHill」のブランド力を高めるものである。87枚のプレートが連続し、柔らかな面で構成される建築物を提案する。利用者がコラボレーションを通じて新しいテーマを探すという積極的な活動形態をうみだすものであり、新しいテーマ

は想像力や共感力の創出・蓄積の場として、高岡のデザイン・工芸都市としてのブランド力を高めるためのツールとなる。つまり、建築というハードウェアを提供し、そのハードを支える高岡の存在する意味を強めるものである。





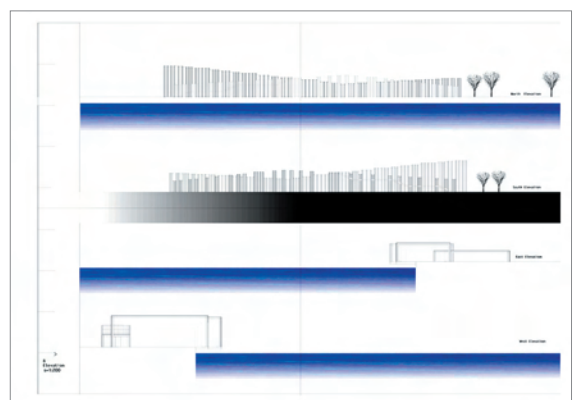
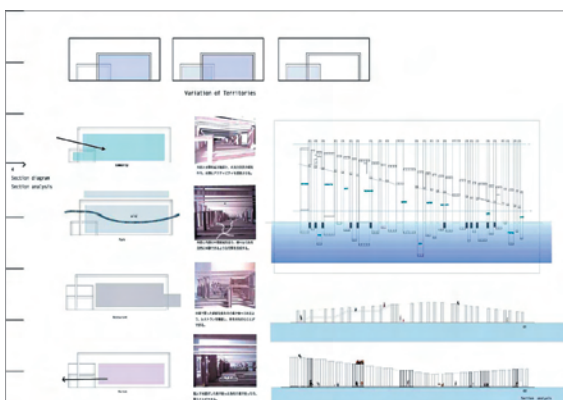
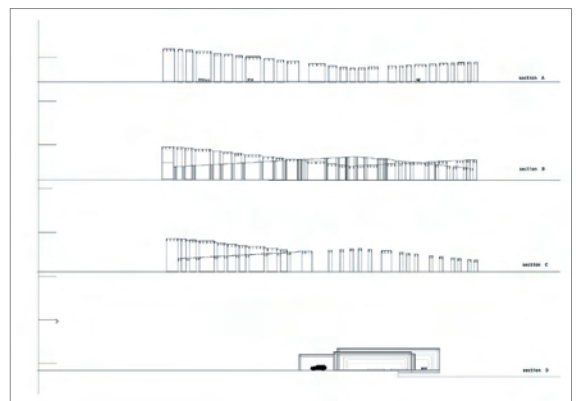
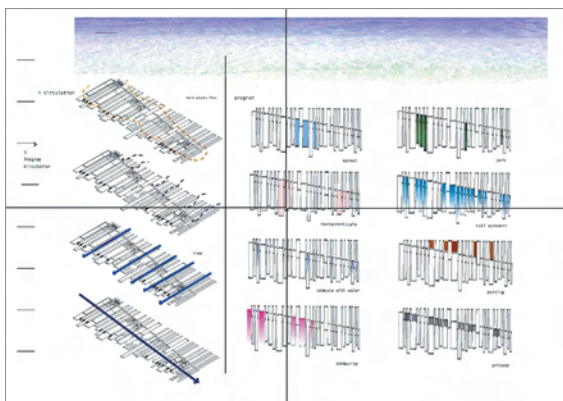
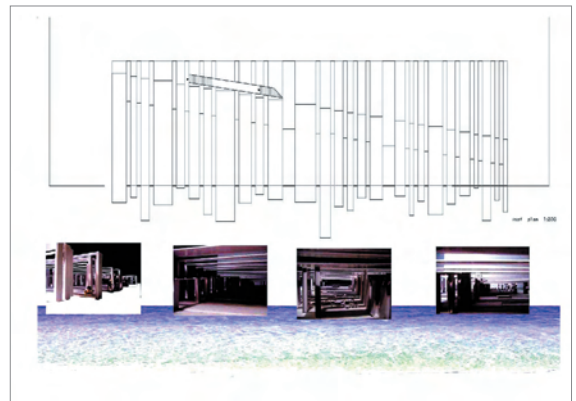
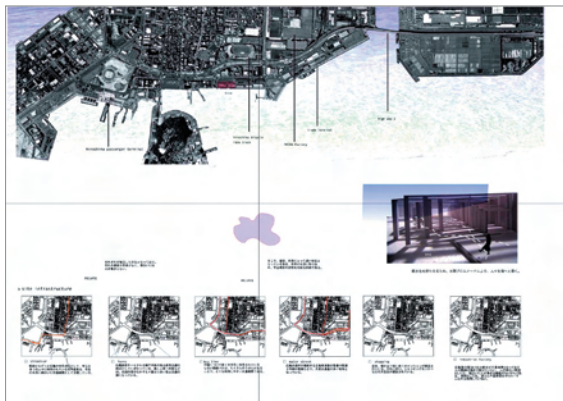
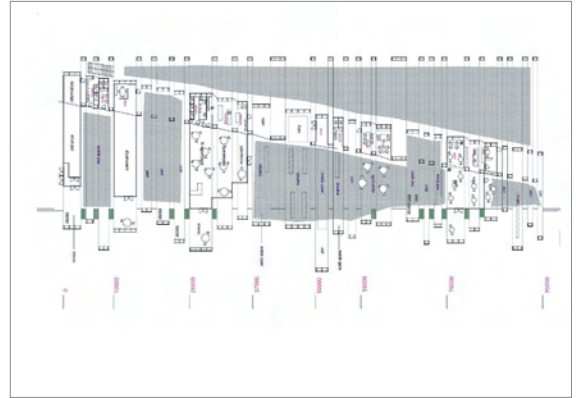
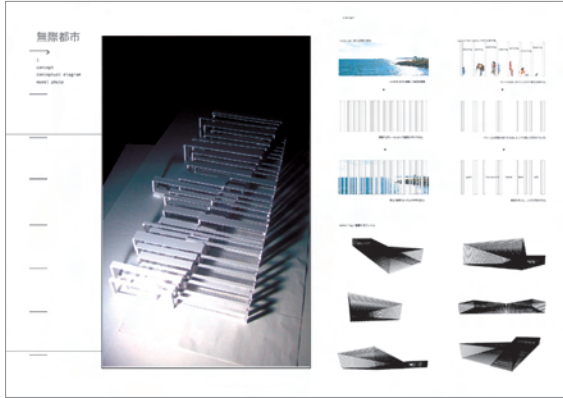
## 19. 無際都市 A city without case

井藤 直子  
Itoh Naoko

建築意匠研究室

国際交流拠点として計画され、広島に根本的な変容をもたらすことが期待されている宇品地区だが、海に面していながらも、その海岸線は工場や倉庫に覆われ、海の存在を感じることは極めて少なく、海は人々の生活から遊離した存在となっている。

本計画は、周辺環境とリンクする建築化された公園を計画し、地域環境に密接した機能を点在させることにより人々の生活に「水際」を取り込み、都市的かつ高機能な活動の場として再編したものである。







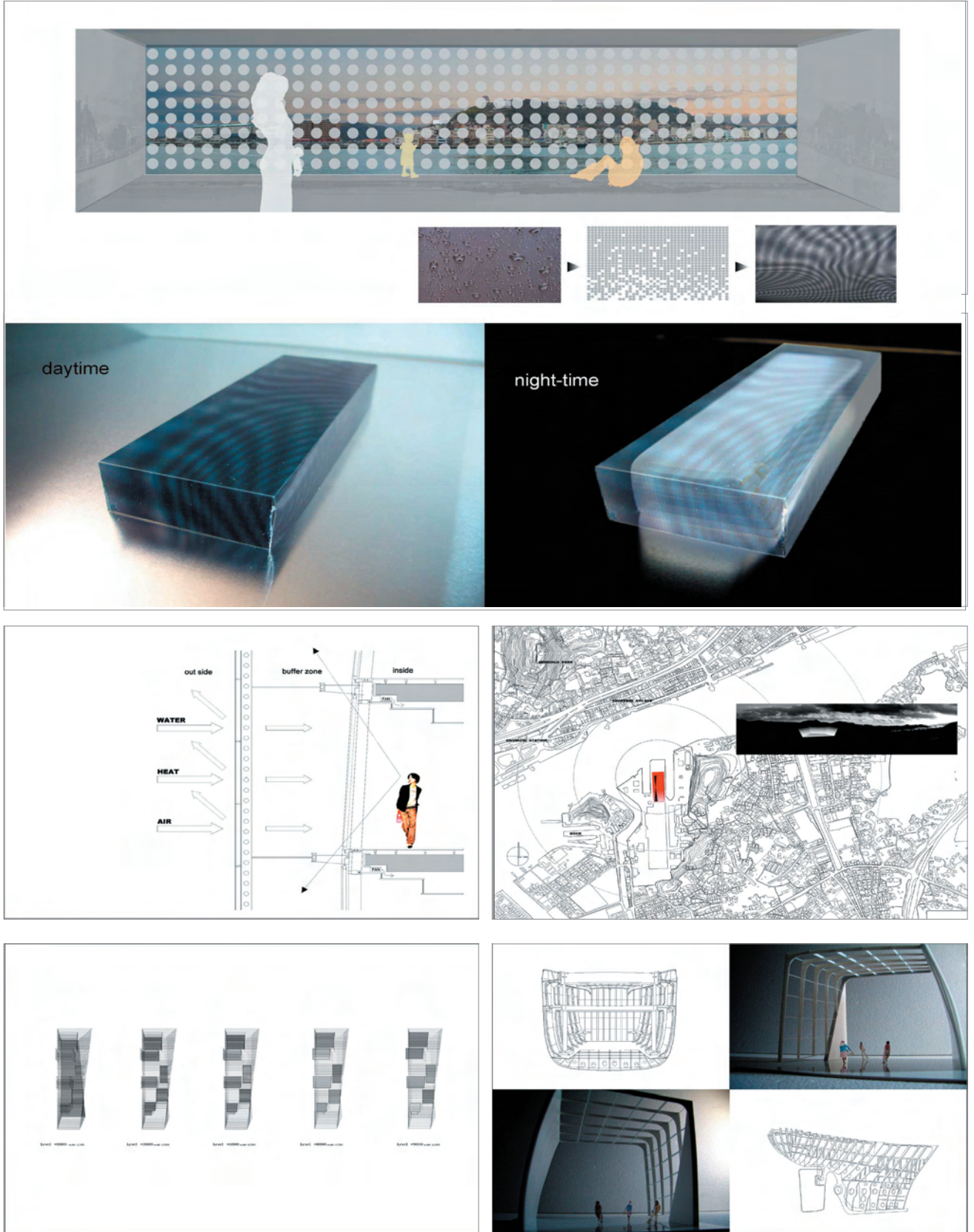
## 20. Junk Terminal ～尾道水道の活性化～ Junk Terminal ～Activation of the Onomichi water service～

工学会賞 1 席

木谷 隆文  
KIDANI Takafumi  
建築意匠研究室

港町である尾道には「港」という都市の中心が必要である。尾道を象徴する場所に、この建築を作ることが重要であると同時に、都市の中に新しい都市が形成されるような建築ができないかと考えた。これまで物流と生産が主体であった港を、人、物、

情報など統合的な機能を有する未来に向けた「みなとまち」は再生する。充実した機能を持った建築を計画すると同時に、尾道の核となる水際プロムナードに新世紀の象徴となる、街から海につながる魅力的な建築を目指す。





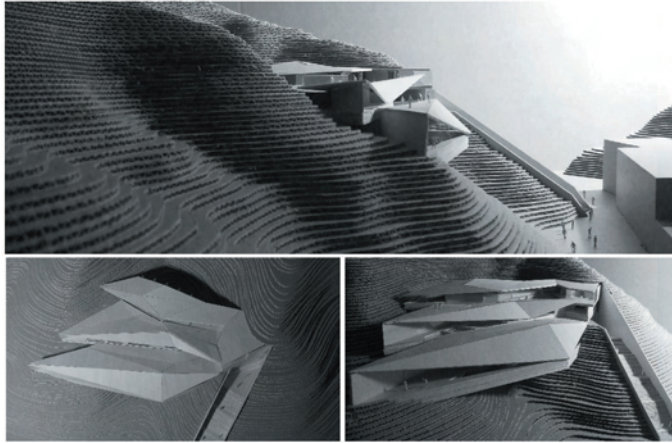


## 21. 形態からの逸脱 ~湯の花地区活性化計画~ Deviation from a form ~YUNOHANA district activation plan~

楠 和巳  
KUSUNOKI Kazumi  
建築意匠研究室

京都湯の花温泉は、京都で名の知れた温泉街である。来訪者は他の用途を持った施設が存在しないことにより、外に出ることが少なくなった。地域住民は温泉地で生活しているにも関わらず、温泉との関係は希薄になっている。両者で形成されている地

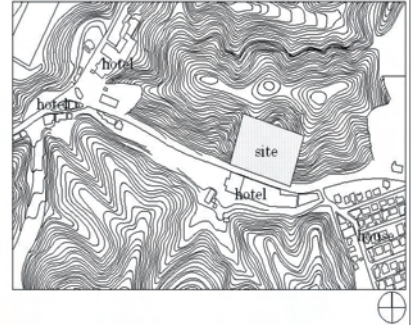
域のはずが、交流なく経過してきた。そこで、京都府亀岡市の山間にある湯の花温泉地に異質なフォルムを放つ公共温泉施設を挿入する事で、住人と来訪者の交流がなかった形態から逸脱し、湯の花地区の今後の発展の在り方を提案した。



model photo

### ■ site / 周辺環境

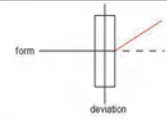
敷地の周辺には宿泊施設と住宅が隣接している。利用頻度が向上し、地域住民と来訪者の交流が生まれる。



### ■ 形態からの逸脱

形態：アリスヤマ、形に現れた姿、形式

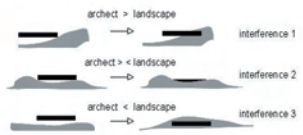
逸脱：本筋からそらし外れること



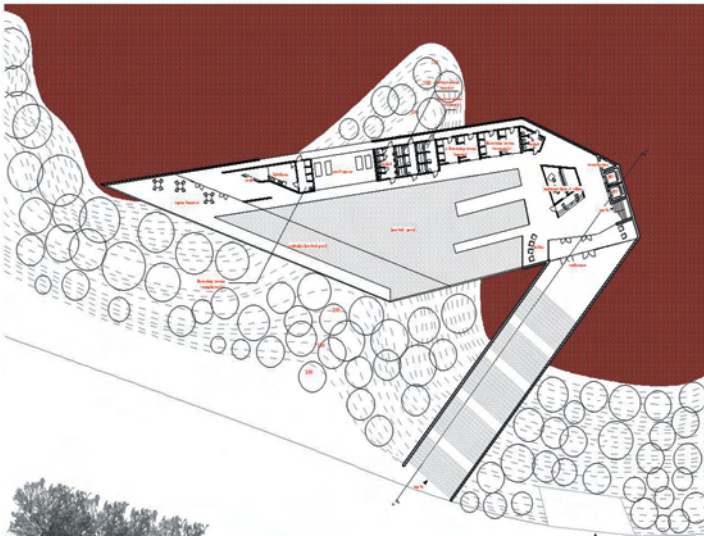
湯の花地区は、住宅と旅館で形成されている地域である。住人と来訪者の混じりあうことなかった形態から逸脱することで地域形態が弱され、新しい形態が生まれる。その形態が、この地域の活性化に繋がる。

### ■ 自然と建築の関係性 / ランドスケープ

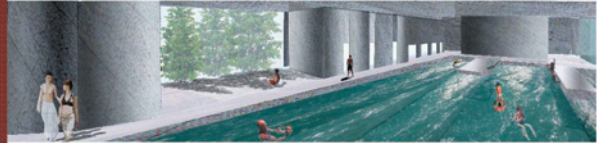
自然と建築の関係性を表したものである。



concept & diagram



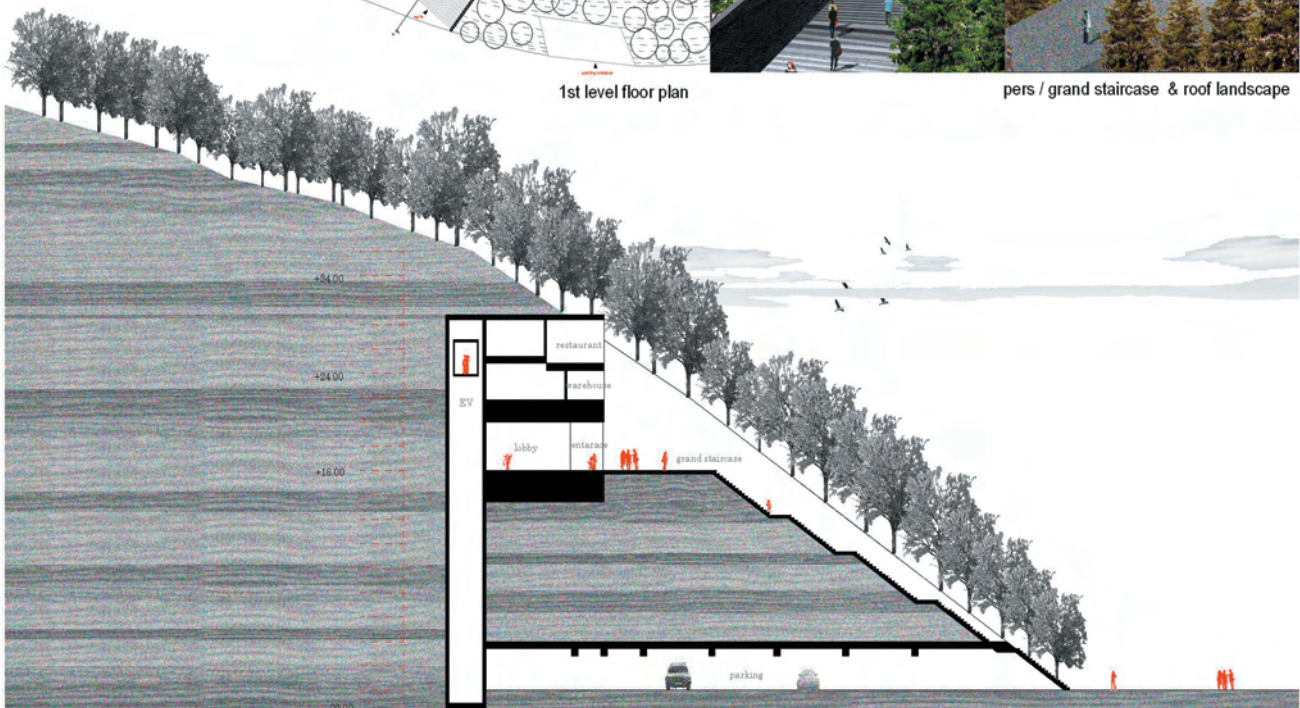
1st level floor plan



pers / pool



pers / grand staircase & roof landscape





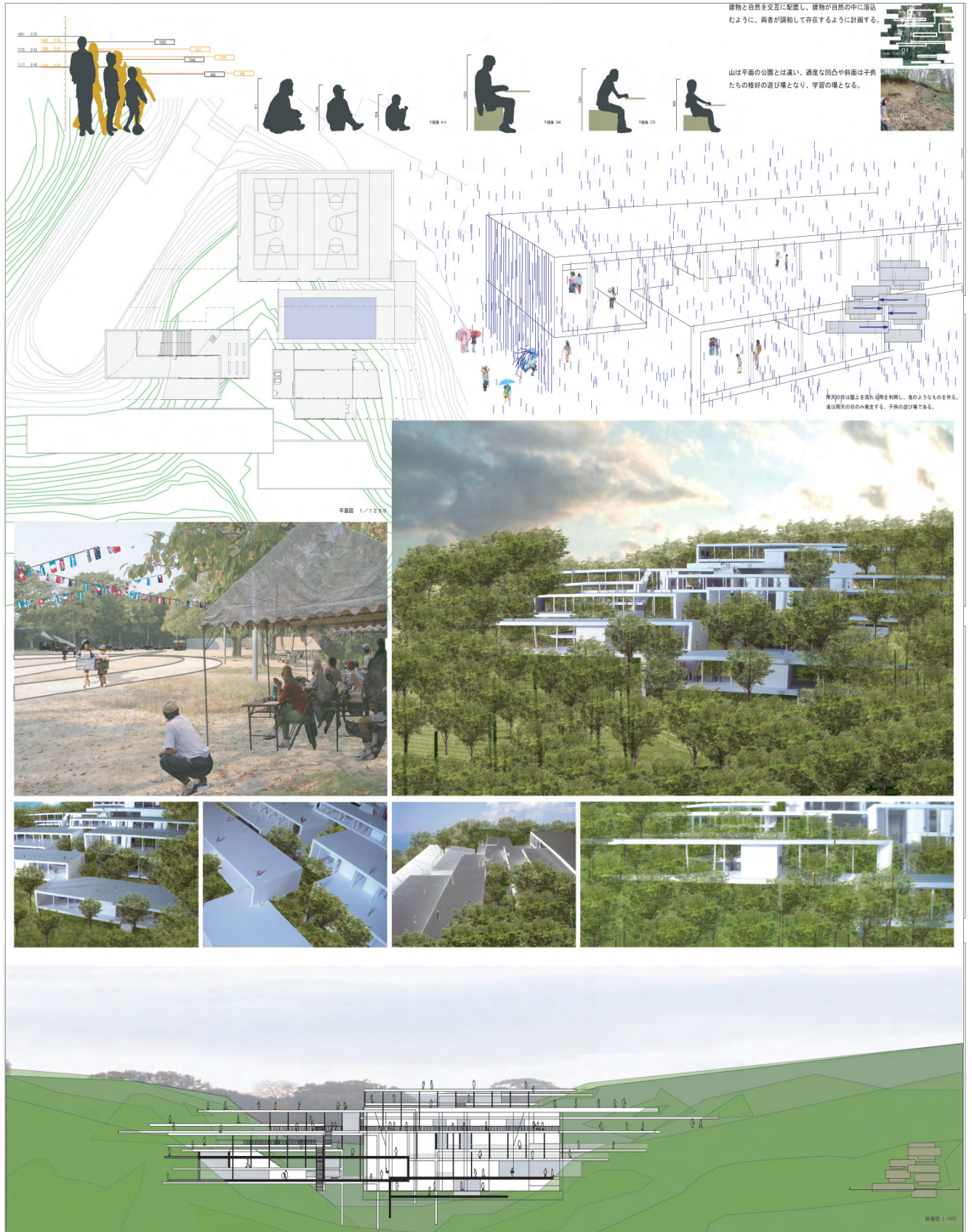


## 22. 自然への入り口 Entrance of nature

胡麻田 悟史  
GOMATA Satoshi  
建築意匠研究室

都市と自然をつなぐ入り口として小学校を計画する。山と長方形の建物を互い違いに配置し学校に地域社会を取り込み、人と自然が混ざり合うこれからの自然と都市のあるべきひとつの風景を提案する。時間、空間の減少で外で遊べなくなった子供たち

にとって、学校は自然へとつながる入り口となる。これにより比治山を安全な子供の遊び場とし、子供たちの自由な発想で遊びと学びを両立させる空間を目指す。





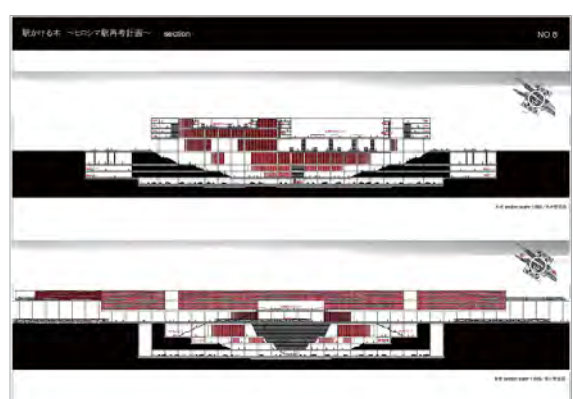
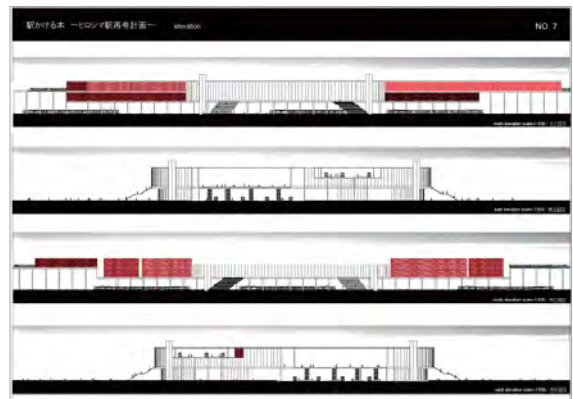
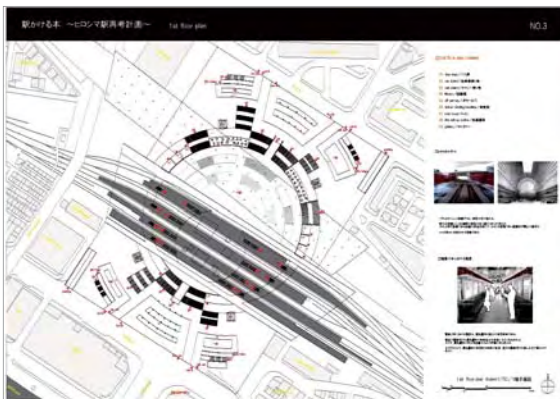
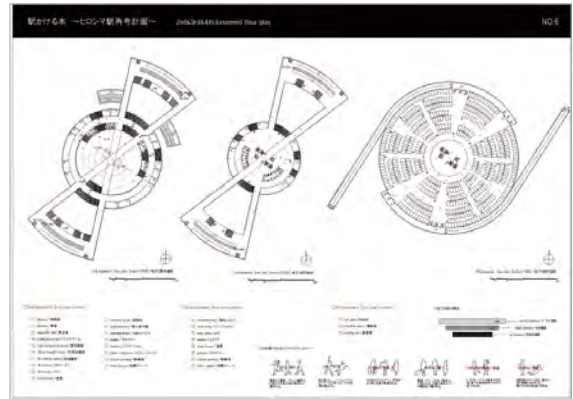
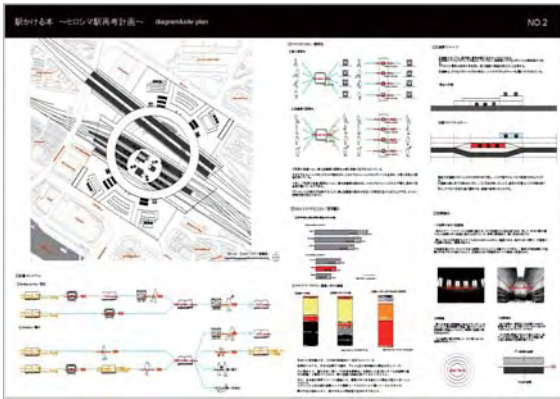
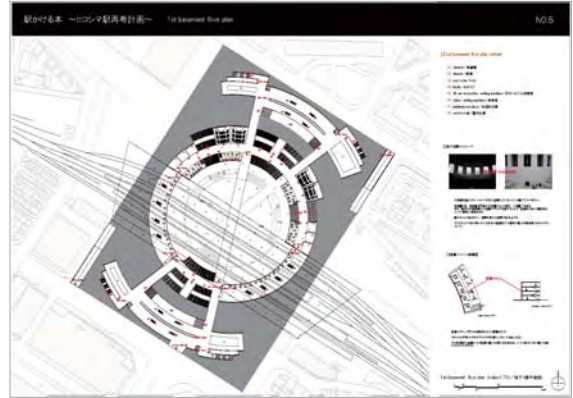
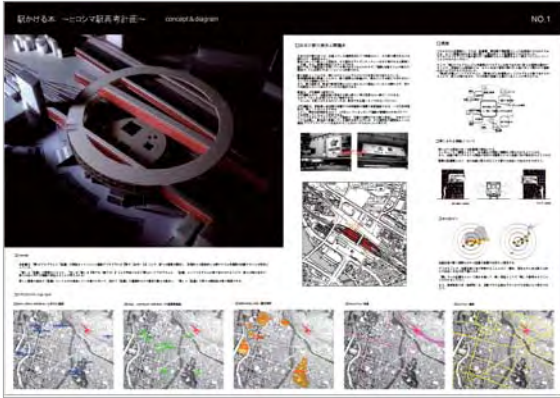


## 23. 駅かける本 ～ヒロシマ駅再考計画～ Station kakeru Book ~Hiroshima station reconsideration plan~

坂野 新  
SAKANO Arata  
建築意匠研究室

「駅」の機能と「図書」の施設が持つ機能を『掛ける』ことで、物理的にも機能的にも開かれた公共施設を計画する。「駅」と「図書」の機械化によって、「本」は「駅」を『架ける(駆ける)』ことが可能になる。「駅」と「図書」という機能が掛け合わされるこ

とで、新たな場が生まれ新たな本に対する意味が芽生える。新しい情報の媒体が「図書」というものを侵食しちいる現代において、あらためて「図書」の道徳的な力や書物の魅力を見出し、「駅」と「図書」の新たな関係性を問う。







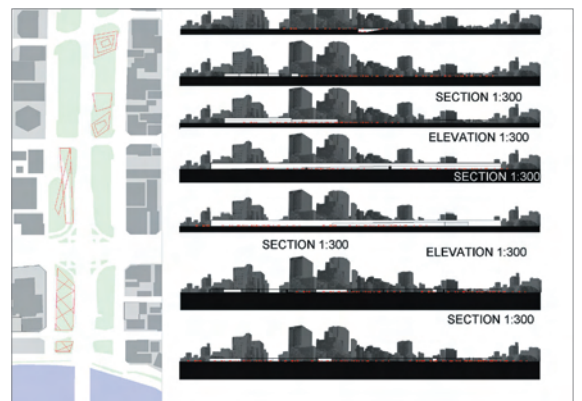
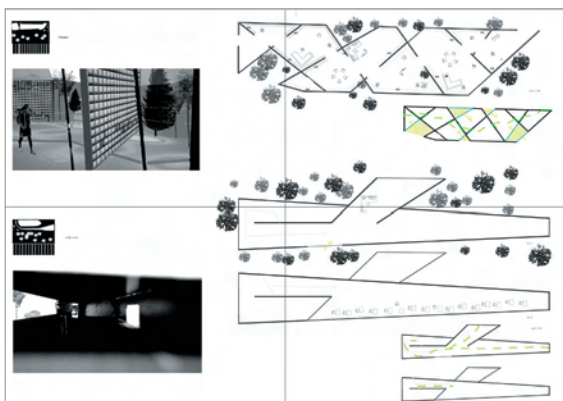
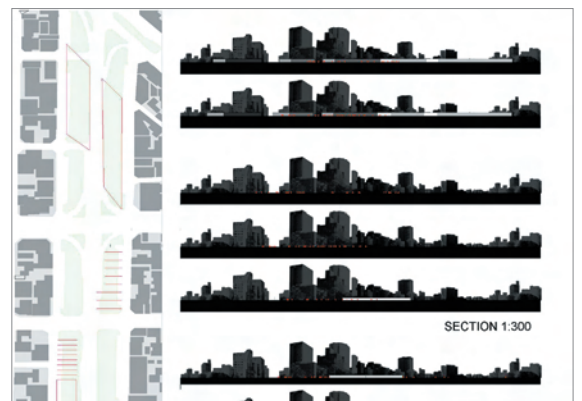
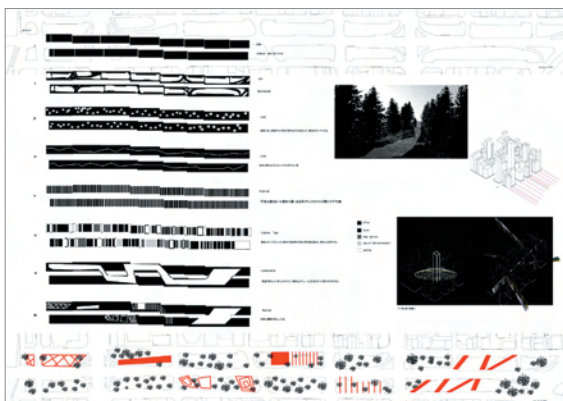
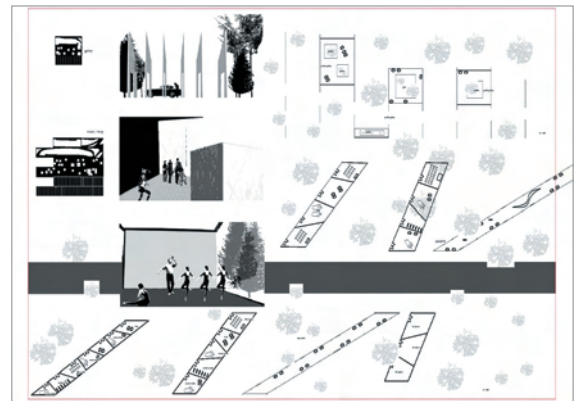
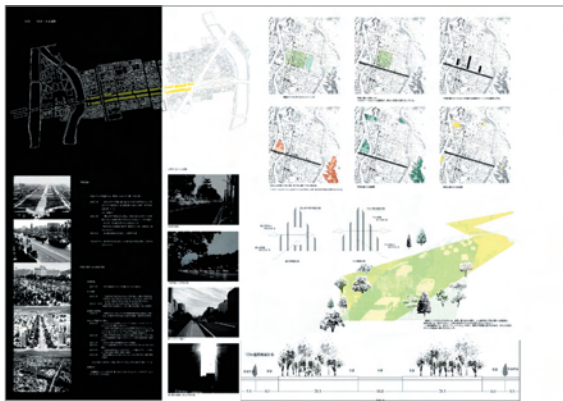
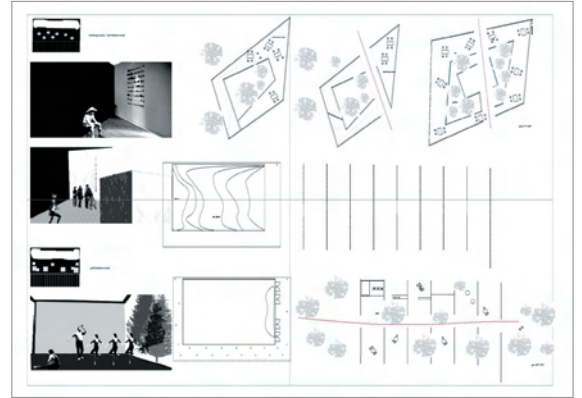
松浦 奈保  
MATUURA Naho

建築意匠研究室

## 24. Transition of the city - 都市の移ろい - ～ 100 道路文化村計画～ Transition of the city -Plan for the cultural community on the 100m road-

広島市の街地を幅員 100 m、東西 3.9km にわたり横断する平和大通の一部（田中町交差点～西平和大橋）の既存の緑地帯を中心とした敷地に、多くの植樹された樹木をそのままの状態、道なりに7つのストラクチャー（公共空間）を点在させるもので

ある。人々の滞留を促す小さな機能を挿入することによって、交通空間として車や人々が大量通過するだけだった平和大通りに、都心から人々の賑わいを表出させ、より豊かな広島の顔としての、平和大通りの移ろう風景を創造する。





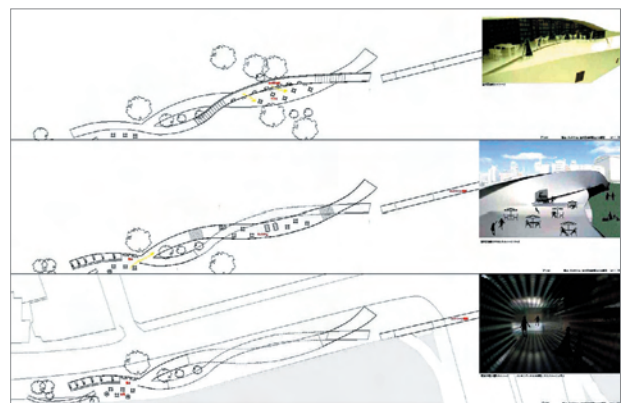
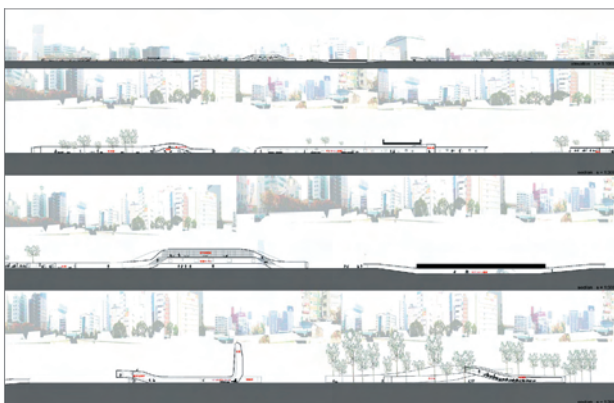
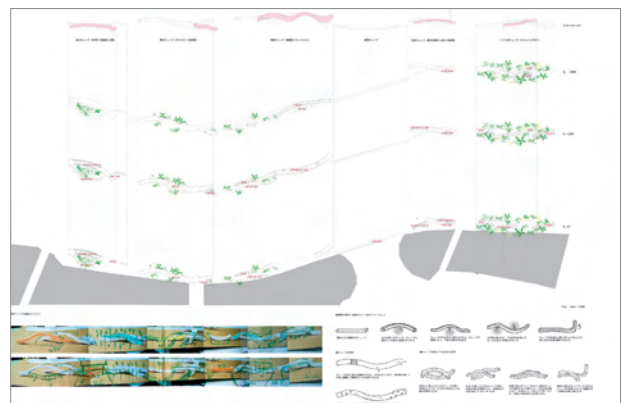
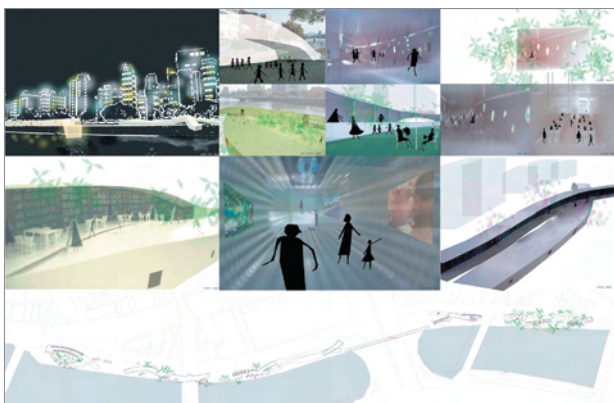
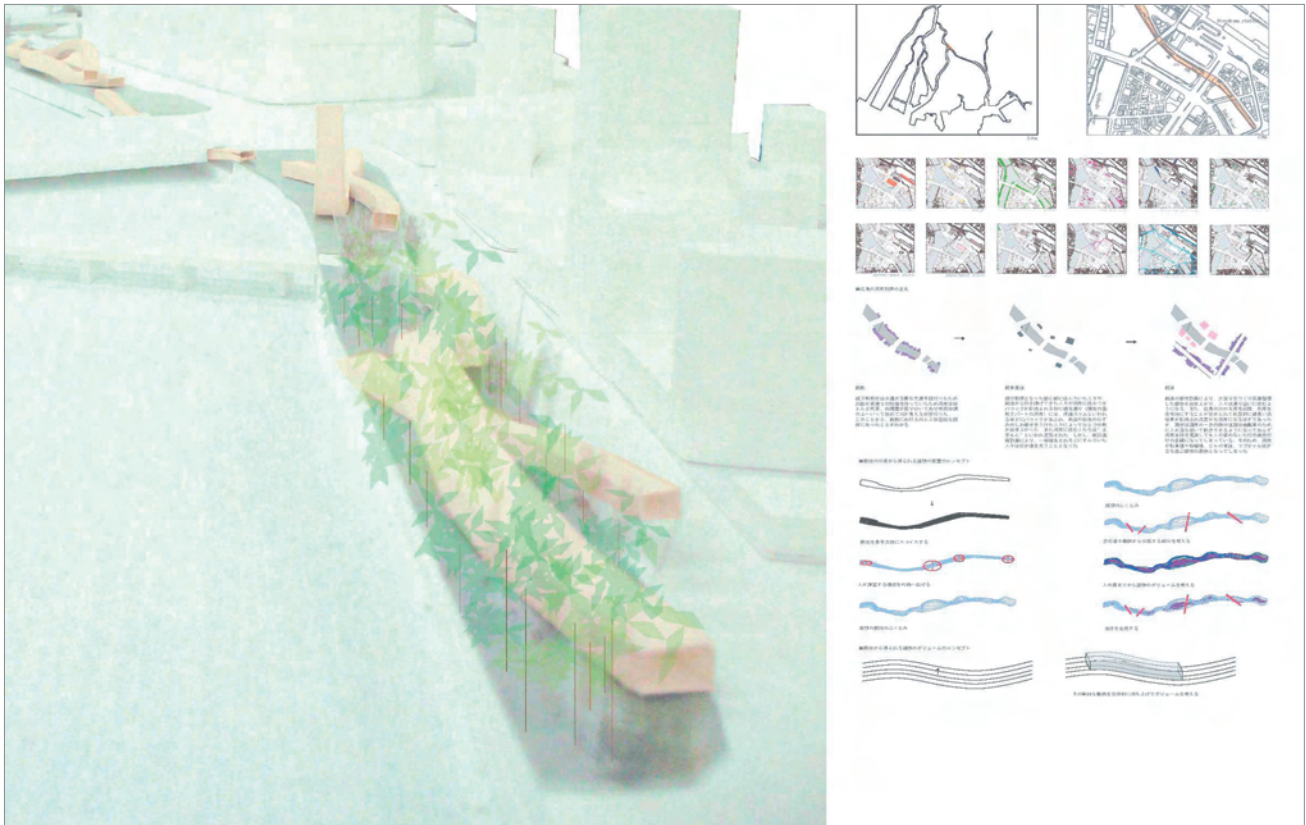
## 25. より道の公園～川岸緑地帯の利用～ Loitering Park ~Use plan of river bank green belt~

宮城 麗子  
MIYAGI Reiko

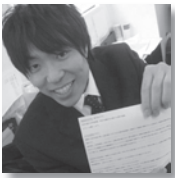
建築意匠研究室

現在あまり有効利用されていない広島駅前の京橋河川緑地帯に、ふらっと寄り道をするようにのんびり時間を過ごせるような場所となる、複合的な公園を計画する。この公園は、外壁材と構造の一体化したチューブ状の建築物で構成され、商業施設

と公共施設が混在する。今までは、通過地点でしかなかった川沿いの新しい利用法を、複合都市公園という形で提案し、今までとは違った川並を計画する。





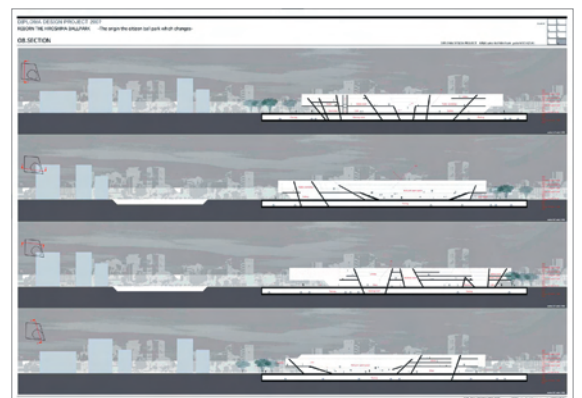
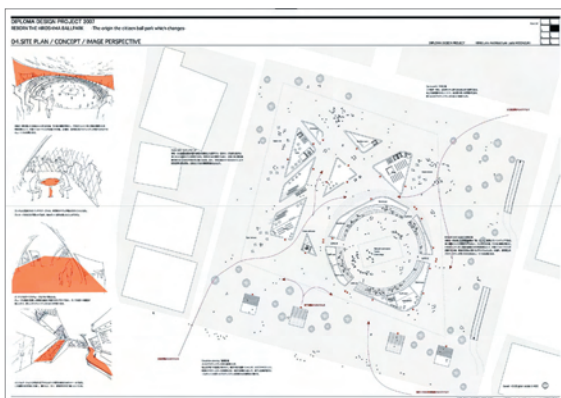
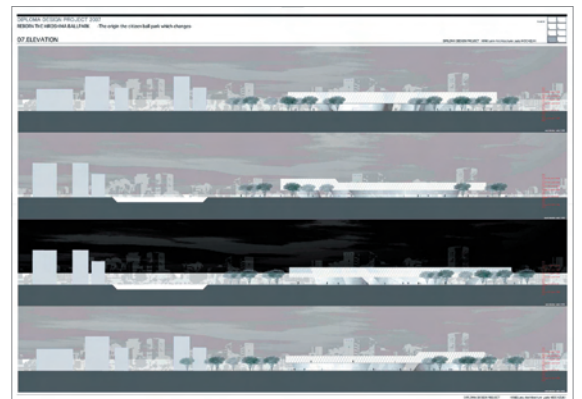
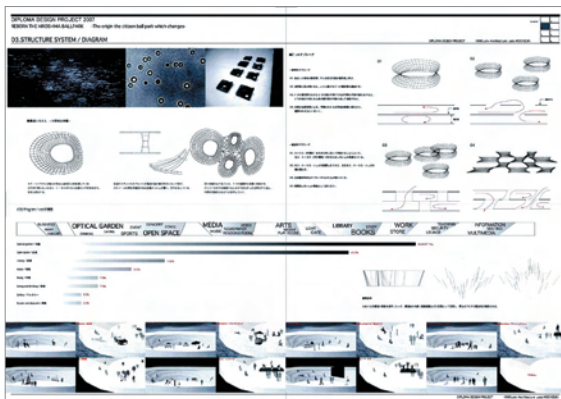
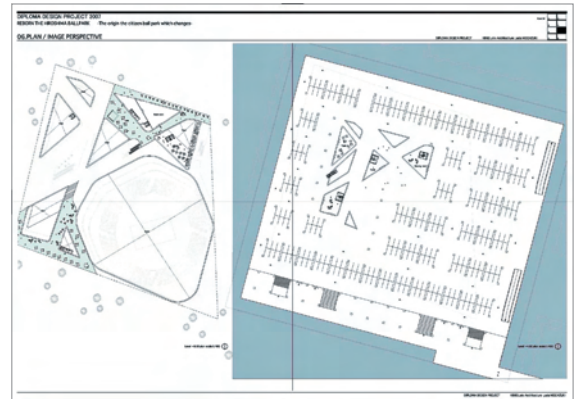
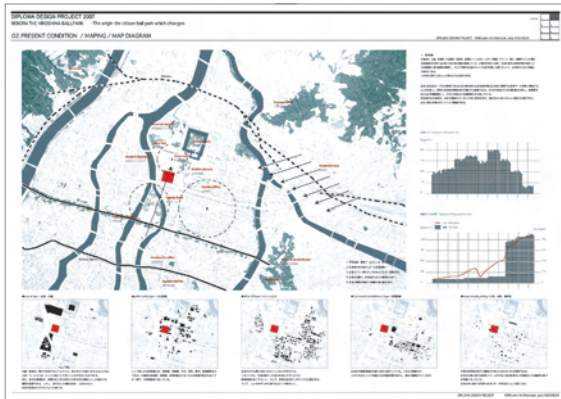
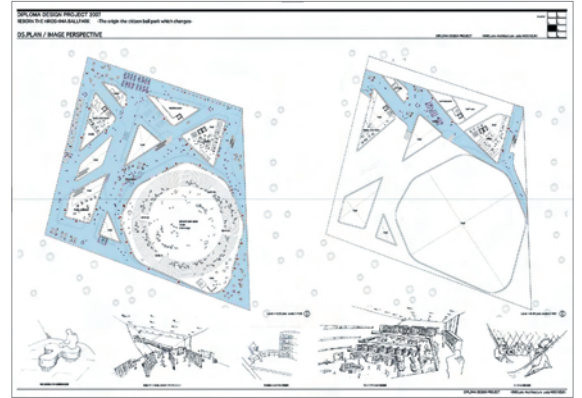
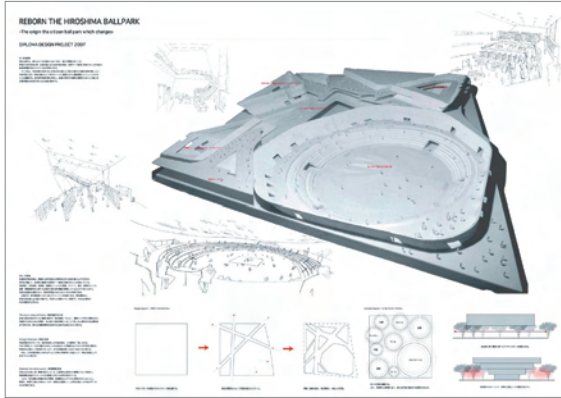


## 26. 生まれ変わる市民球場 ～市民の記憶が生き続ける建築空間の提案～ Reborn the Hiroshima ballpark ~The origin the citizen ballpark which changes

望月 祐大  
MOCHIZUKI Yuta  
建築意匠研究室

現在の都市は、様々なモノの交通の node であり、絶えず更新されている。開場から半世紀の間、広島を盛り上げてきた広島市民球場も、貨物ヤード跡地に移転することが決まり、跡地利用案が求められているのが現状である。

本計画は、市民球場を市民とともに広島街を盛り上げ、愛され続けた球場の記憶を残しつつ市民が集う文化・情報の拠点として現代のニーズに最適化された機能構成にリニューアルした複合施設の提案である。







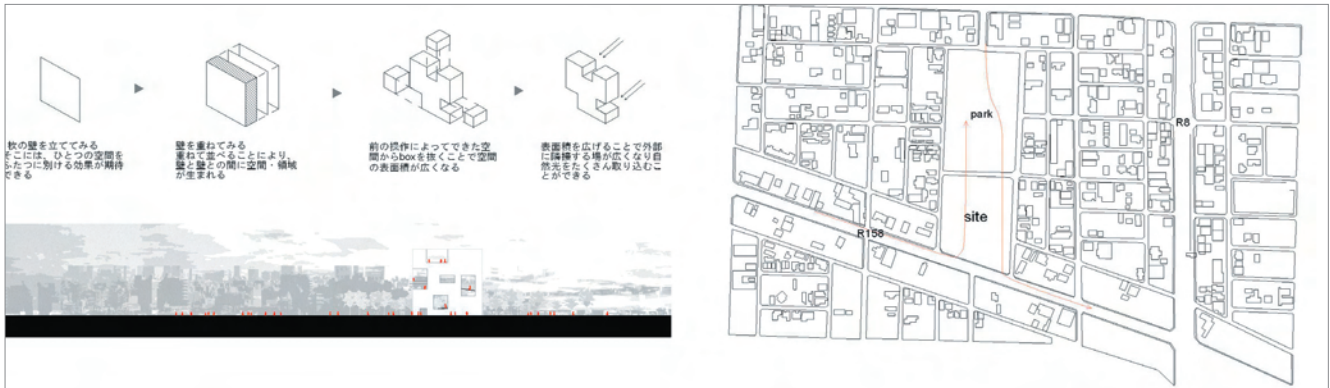
## 27. 福井警察署建替計画 / Spread —広がる警察署— Spread / Fukui Police Station Rebuilding Project

安川 知佳  
YASUKAWA Tika

建築意匠研究室

警察署の一部を市民に開放し、場を提供することで閉鎖的警察の透明化を図る。結果として権力は薄まり、警察は静かに市民を守っていくことを意図した。庁舎と敷地南側の公園との一体化を図る。  
市民は庁舎の中を一本のスロープを介し

上層階へと上がって行く。そのスロープは情報媒体として、地域活動に触れる場として機能する。市民はこの開放された警察署を訪れることで地域意識が向上し、福井市がさらに安全な街となることを期待する。







山田 篤  
YAMADA Atusi

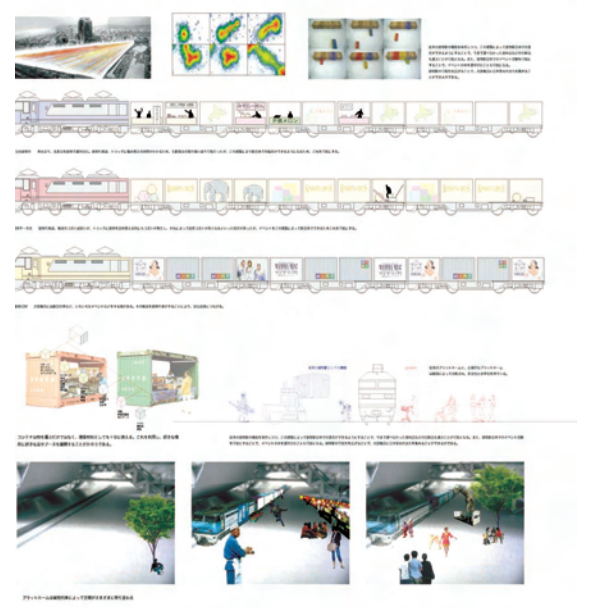
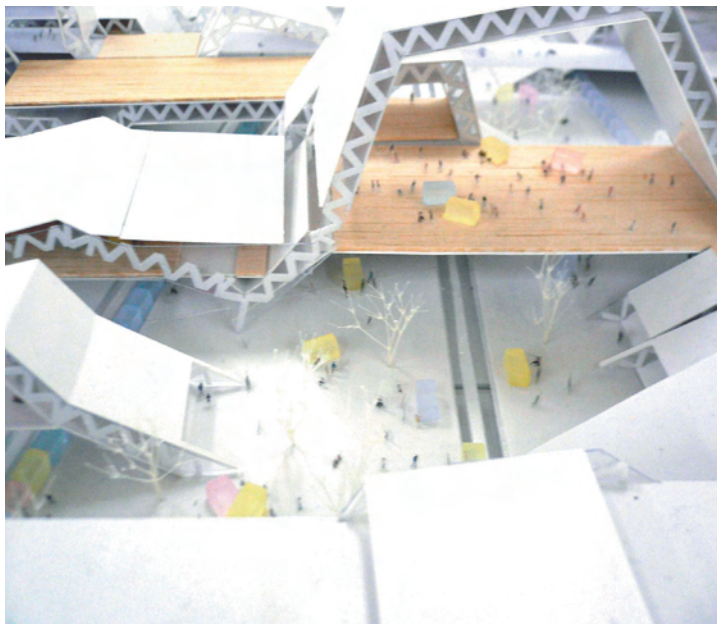
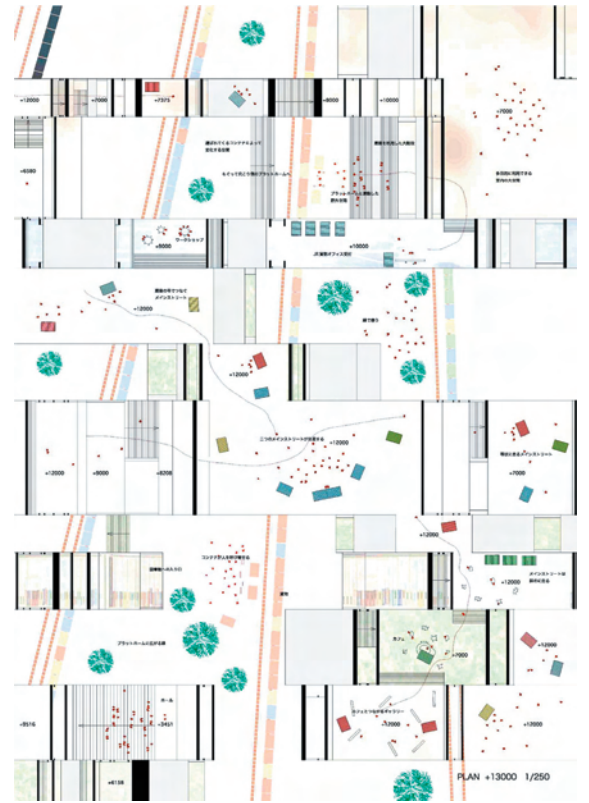
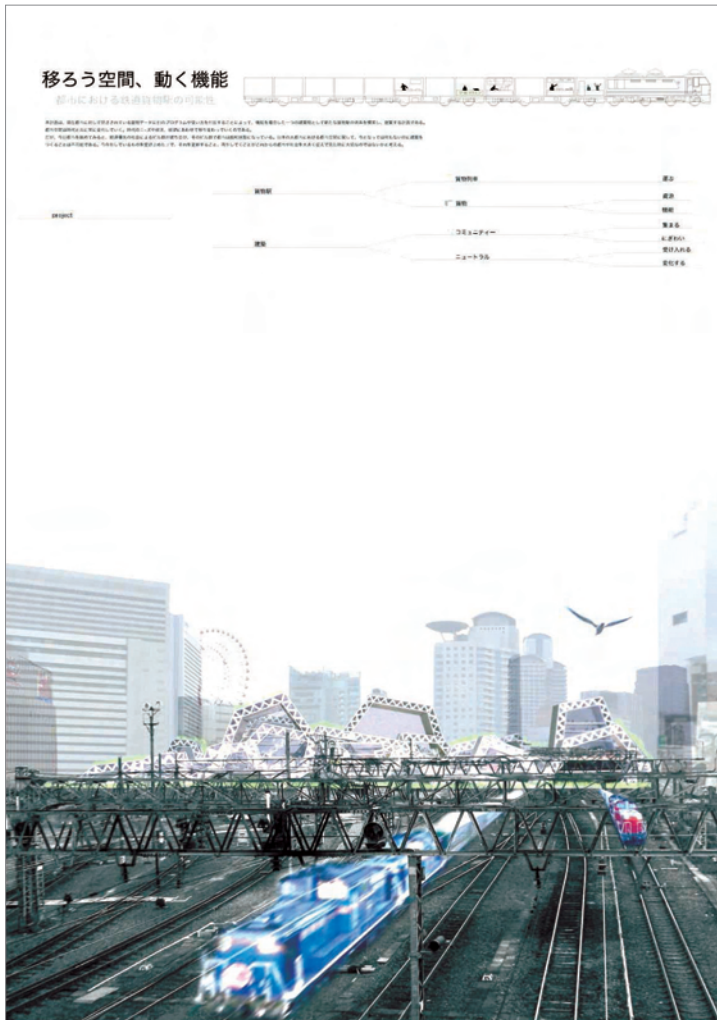
建築計画研究室

## 28. 移ろう空間、動く機能 ~都市における鉄道貨物駅の可能性~ The changing space, The function which moves ~Possibility of the Rail Freight Station in a City~

本計画は、現在都市に対して閉ざされている貨物ヤードに別のプログラムや使い方を付加することによって、機能を複合した一つの建築物として新たな貨物駅の体系を模索し、提案する計画である。

今日都市を眺めてみると、経済優先の社

会によるビル群が建ち並び、そのビル群で都市は飽和状態になっている。今となつては、何も無い所に建築をつくることは不可能である。今存在しているものを受け止めた上で、それを更新することが大切なのではないかと考える。







鈴木 聖明  
SUZUKI Masaaki

環境設計研究室

## 29. SUIDEN HOUSE ~休耕田を活用した学生集住と水上デッキ空間~ SUIDEN HOUSE Students Housing that have Public Deck Space for Citizens on the Idle Rice Field

東広島、西条町は二つの大学の移転、企業工場の誘致などにより、近年になって著しく発展した地方都市である。そして、住居の需要が増大し、賃貸住居建設のために、水田や森林の多くが消滅した。一方、農業従事者は減少傾向にあり、休耕田などの未

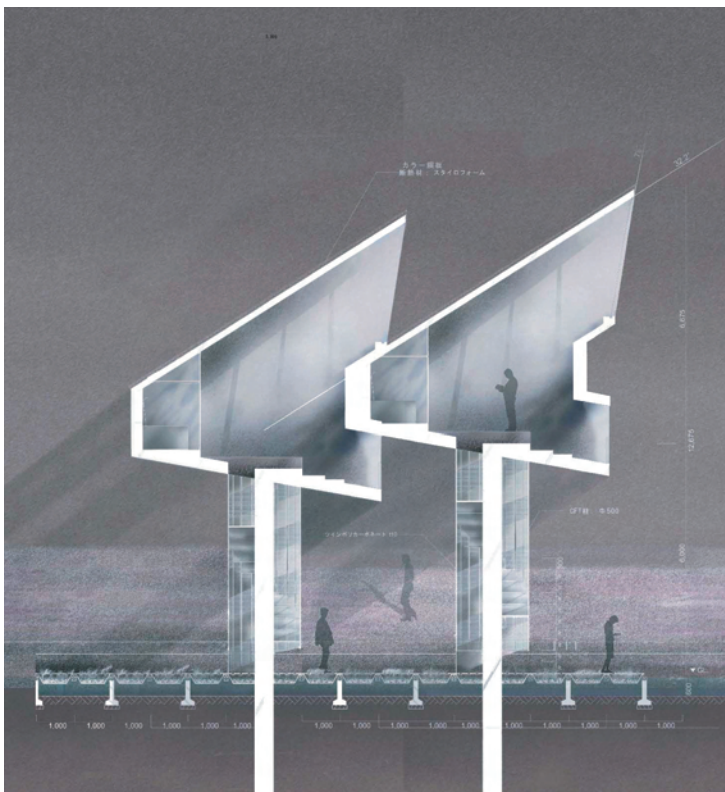
利用地が発生している。このような発展途上の地方都市に建つ集合住宅の今後のあり方として、休耕田を活用した、学生向けの集合住宅と、地域住民が気軽に利用できる水上デッキ空間を提案した。



### 設計主旨

東広島、西条町は二つの大学の移転、企業工場の誘致などにより、近年になって著しく発展した地方都市である。そして、住居の需要が増大し、賃貸住居建設のために、水田や森林の多くの消滅した。一方、農業従事者は減少傾向にあり、休耕田などの未利用地が発生している。このような発展途上の地方都市に建つ集合住宅（以下集住という）の今後のあり方として、休耕田を活用した、学生向けの集合住宅と、地域住民が気軽に利用できる水上デッキ空間を提案した。

休耕田の敷地形状や地形する親水部の特性を活かした計画とすることで、居住者が自然の気候風土を直接的に体験することができるものとした。また、季節の変化に応じた「光」や「風」の建築的な制御によって、周辺住民の小さい快適な生活空間づくりを目指した。さらに、地に埋め込まれた水上デッキ空間を設け、地域住民と学生の交流を促すものとした。







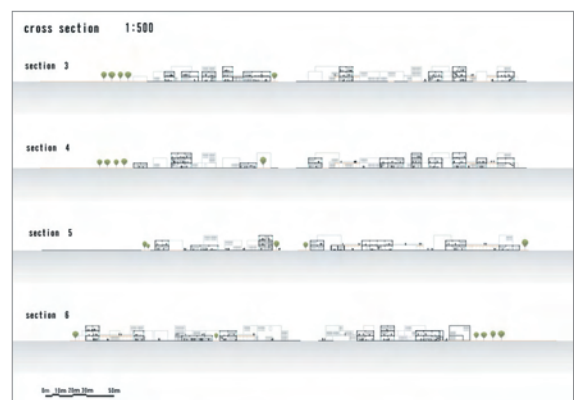
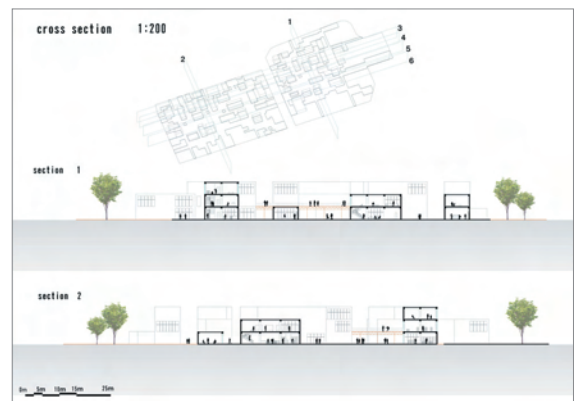
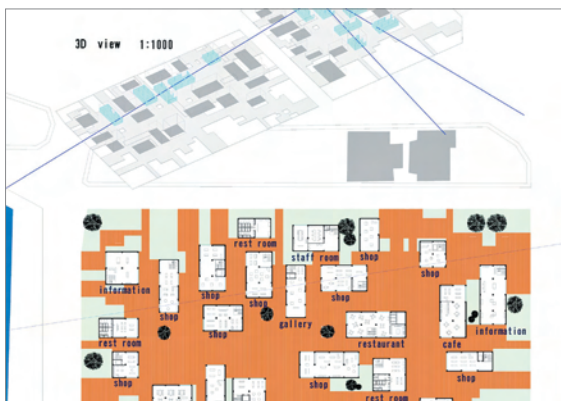
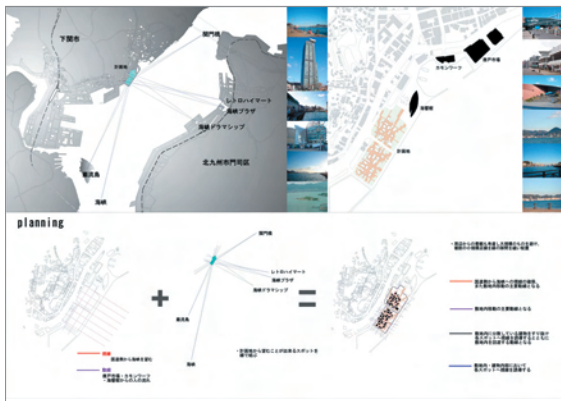
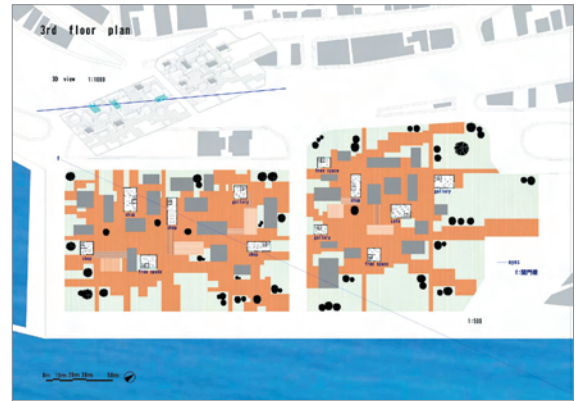
### 30. SPREAD from market ー下関埋立地開発計画ー The changing space, The Shimonoseki Reclaimed Land Development Project

後藤 嗣樹  
GOTO Hideki

空間創造研究室

関門海峡という景観のもとで、唐戸市場・カモンワフ・海響館、そして商業施設と立地的な連続性を生かすことで、賑わい・活気を増すと同時に経済・交流・情報・文化を周辺地域に「広げる」。また、訪れる人の視線・動線を対岸の門司などの周辺観光

スポットのある方向に誘導し、興味を示すように仕向け、人々の行動範囲を「広げる」。そして、計画地一帯を中心として海峡周辺・下関全体の活気・賑わいを増し、活性化へと繋げる。



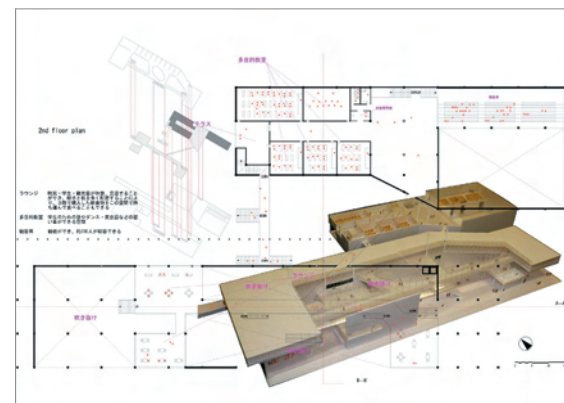
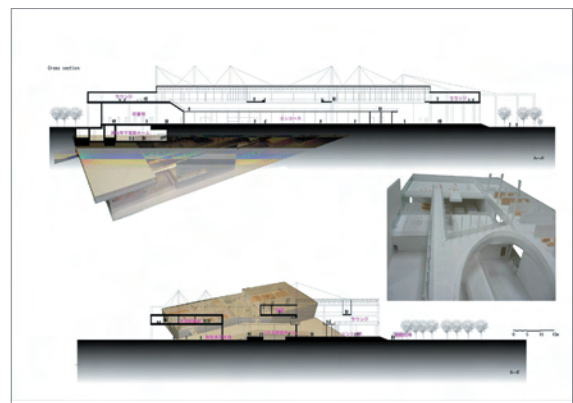
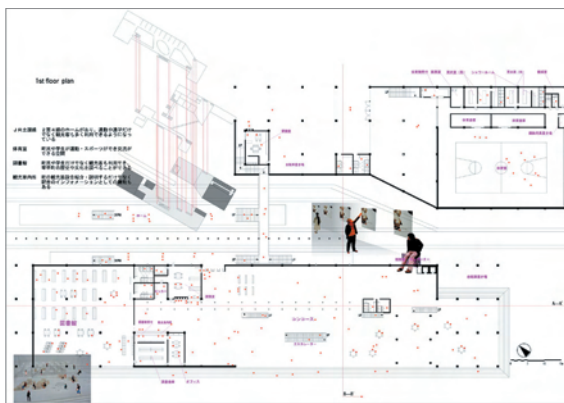
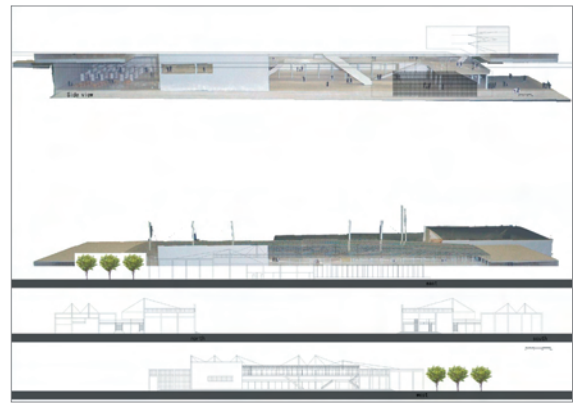
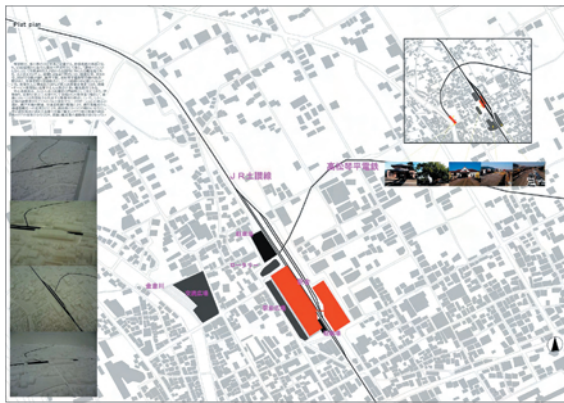
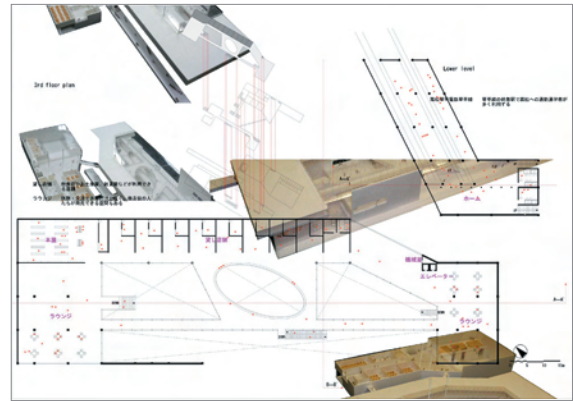


# 31. Mixture —琴平駅統合計画— Kotohira Station Integration Plan

梶月 裕司  
SATUKI Yuji  
空間創造研究室

観光客と町民の交流、商業と観光業の連動性を考えた駅舎を設計することにより、町の活性化につなげる。新駅舎が琴平町の中心として多くの人に利用され学生、町民、観光客の交流が可能となる。多くの人に琴平町の歴史や文化を知ってもらい、観光客

が増えていけばよいと考える。また、駐車場を少なくしたことにより、電車を利用する人が増えると考えられる。このように駅の利用者が増えることにより、琴平町は通過型観光地から滞在型観光地に変化し、町の活性化に繋がっていく。





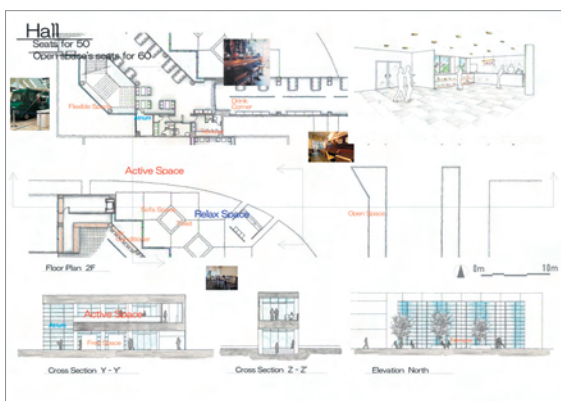
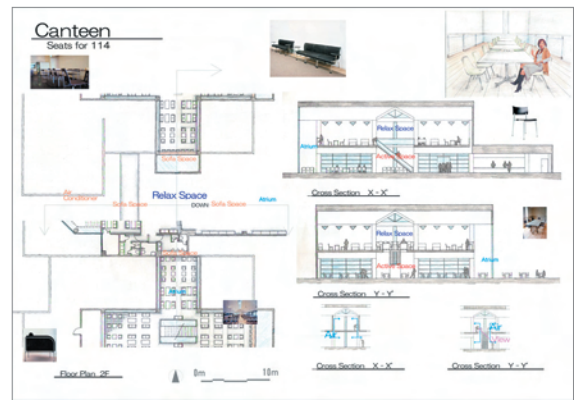
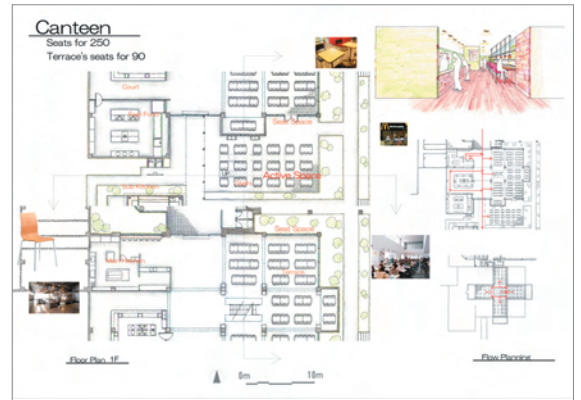
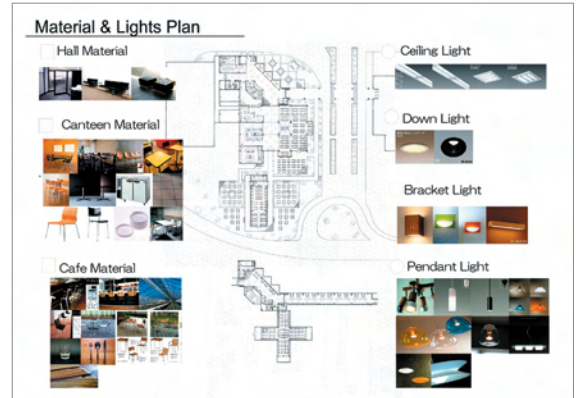
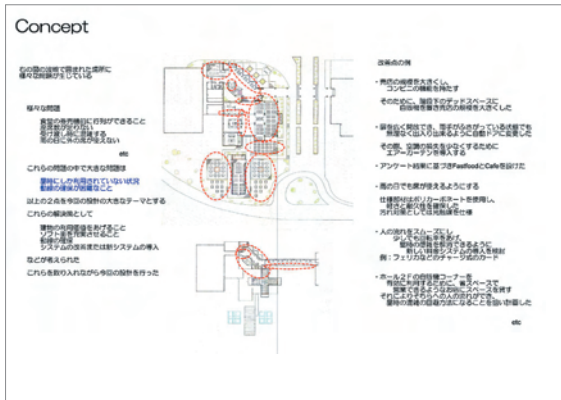
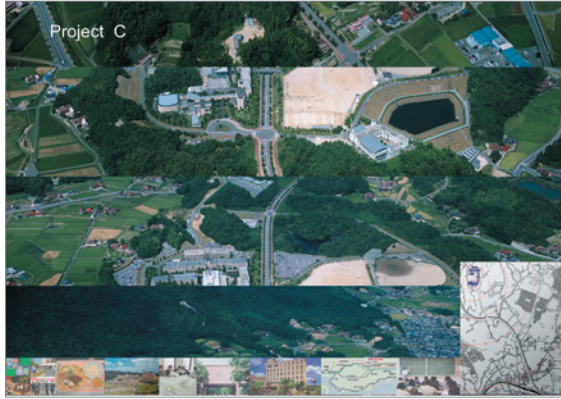


梅崎 晋蔵  
UMEZAKI Shinzo  
空間創造研究室

## 32. Project C (Project Cafeteria) 一時を楽しむ Cafeteria — インテリア学会支部長賞 Project C (Project Cafeteria) — The cafeteria which enjoys time —

大学の食堂は、学生生活を送る上で利用頻度の高い施設であり、一日の英気を養ったり、友達や先生との情報交換を行ったりと、多目的に利用する場所である。その場所が、ただ食事をするだけになってしまっ

近畿大学広島キャンパスの食堂棟利用者にアンケート調査等を実施し、どのような不満や改善点があるのかを見いだす。その調査結果より、「今後の学生生活を快適に過ごすための食堂棟」を提案した。



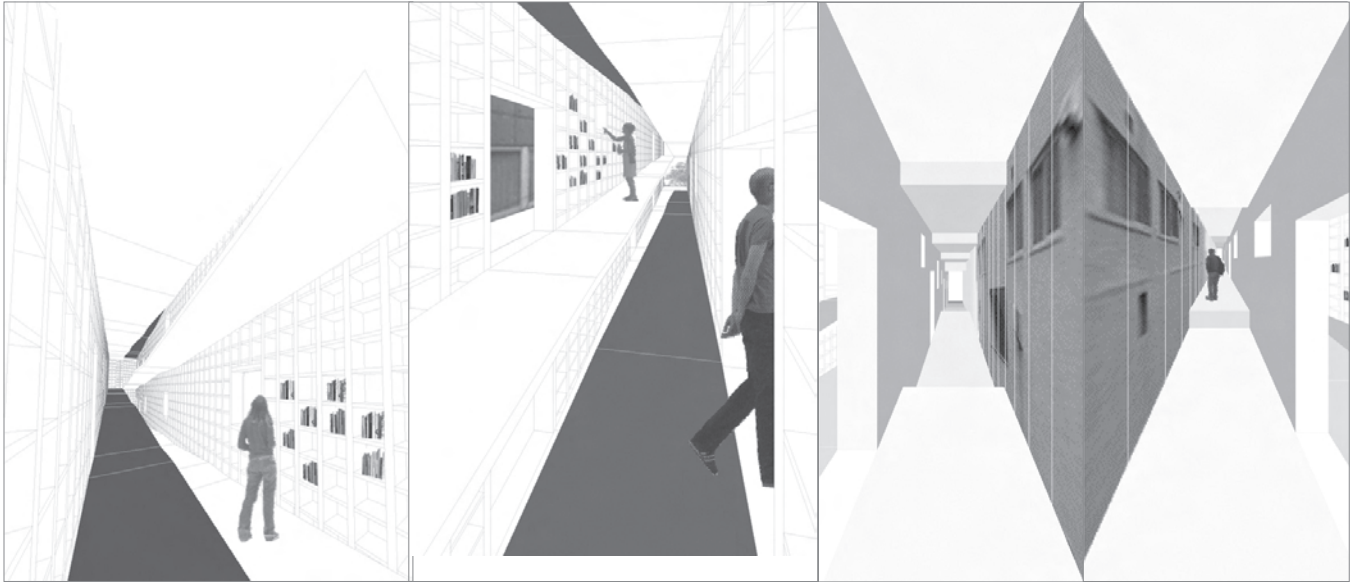


## 01. 都市のアジール Asyl of the compressed city

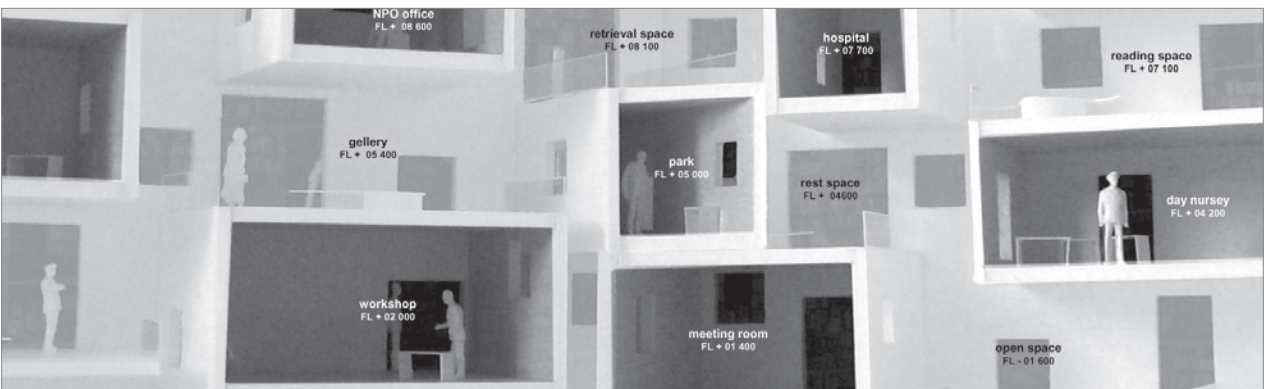
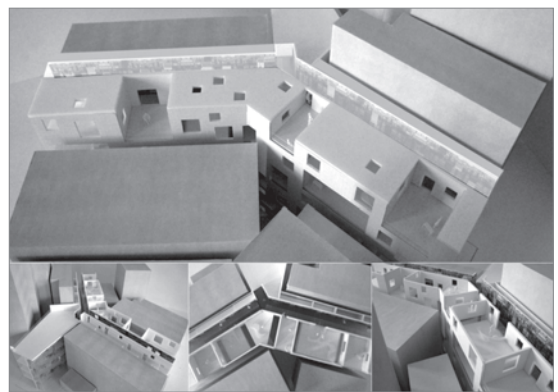
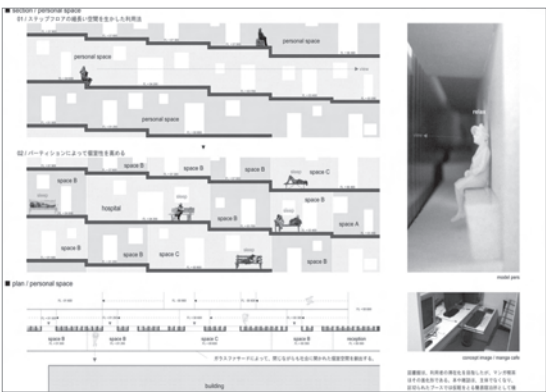
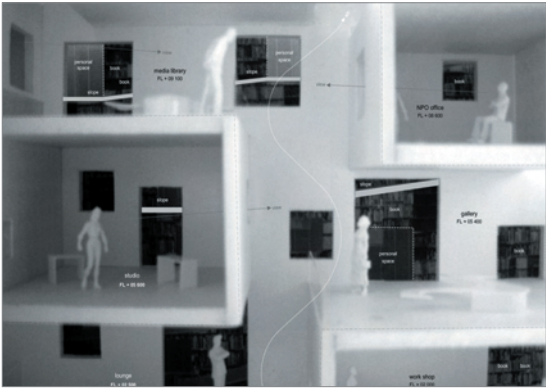
石本 直俊  
ISIMOTO Naotoshi  
建築意匠研究室

「アジール」は「自由領域」や「避難所」などを含み特殊なエリアを意味していたが、複雑化した都市に住むインターネットや趣味を主体としコミュニケーションが苦手な「生活者」を対象とした「アジール」が必要ではないだろうか。本計画は、商業化された都市の中に、図書館をコミュニケーションの媒介とし、NPO 団体によって

運営されるホスピスな「アジール」である。都市構造を形成する「街路」、「建物」、「広場」の3つのインフラストラクチャーを建築の構成要素とする事で、周辺環境で行われている行為を建築に凝縮させる。生活者たちは都市を体現し、都市に晒されるなかで、自分を取り戻して安らぎを獲得し、社会に帰って行くであろう。









## 02. B級の森 A forest of B grade

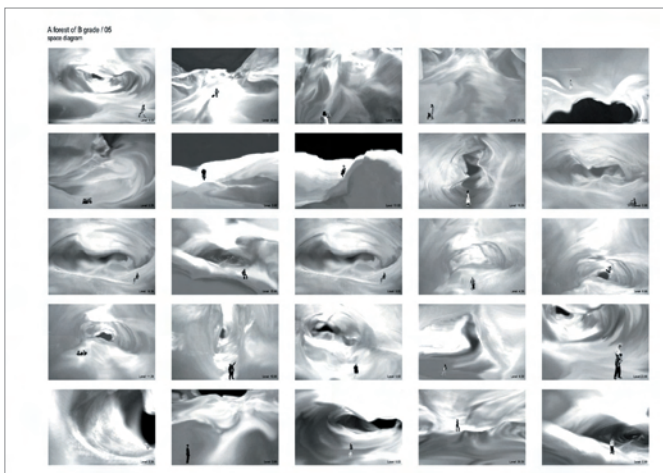
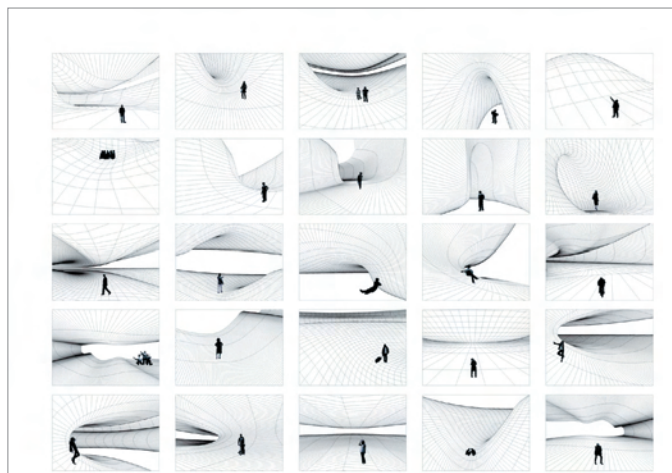
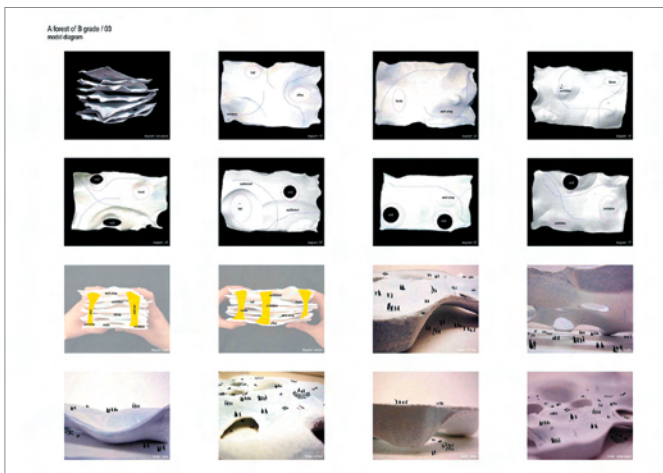
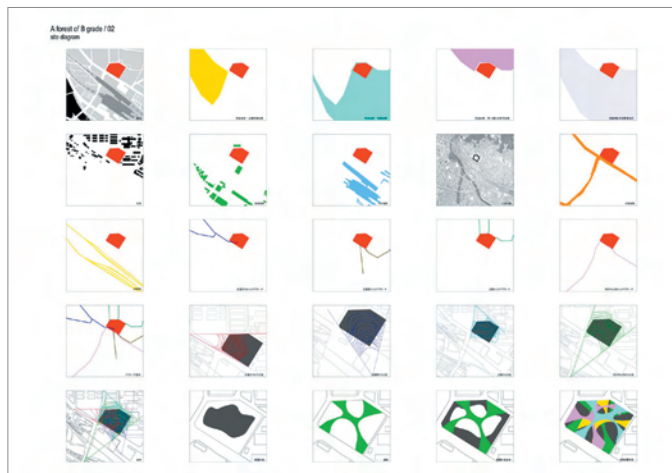
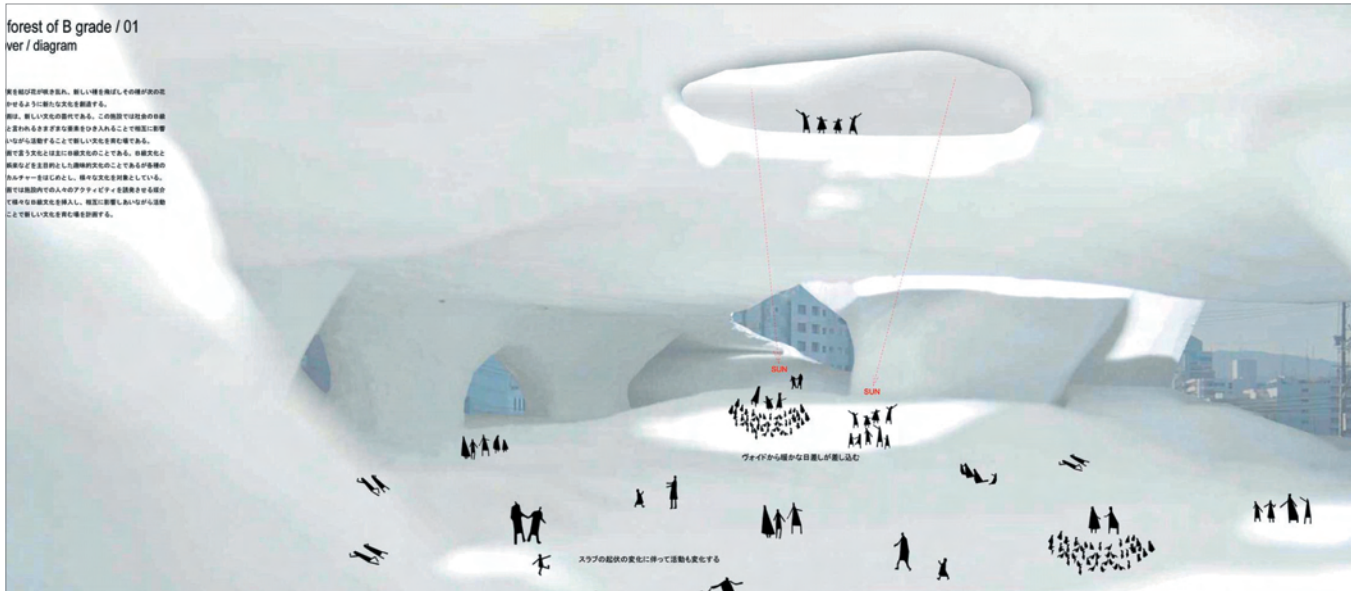
田村 尚也  
TAMURA Naoya

建築意匠研究室

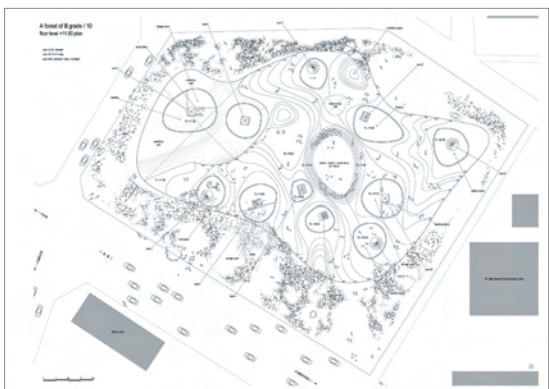
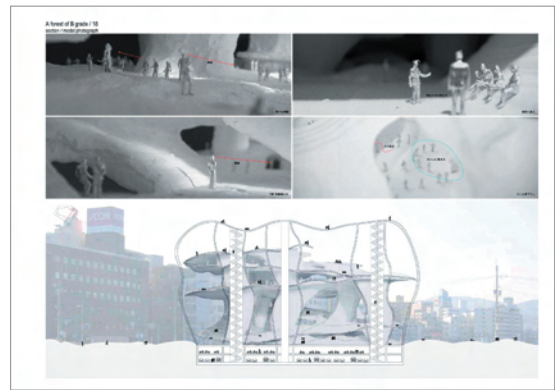
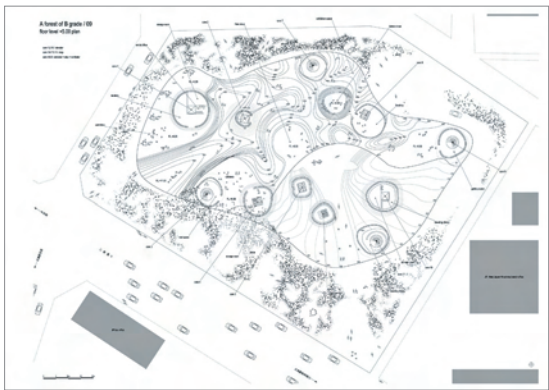
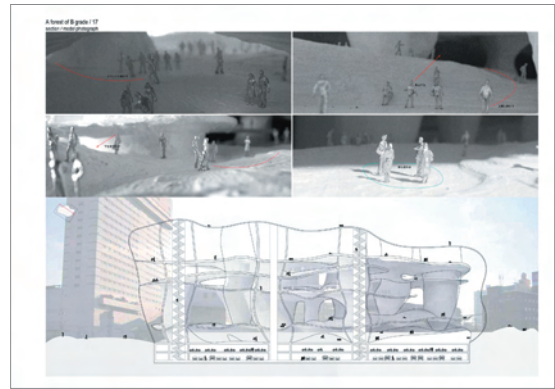
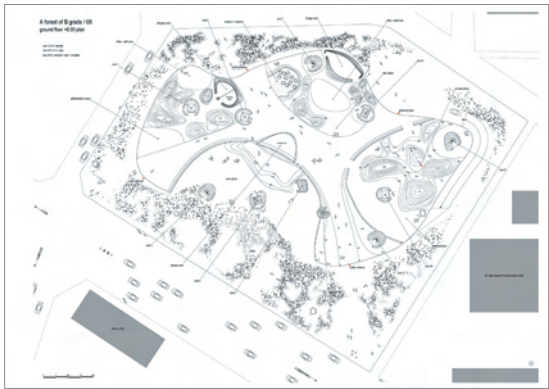
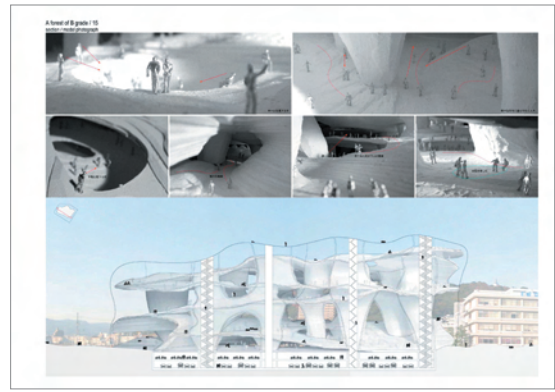
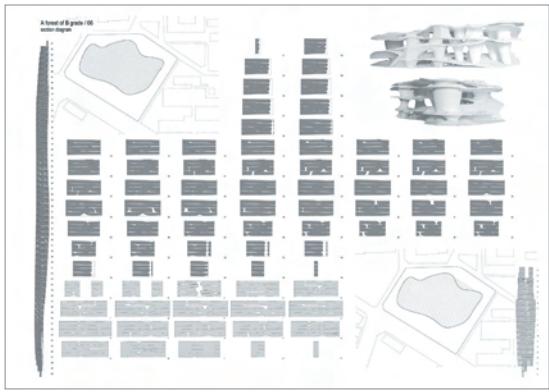
「B級」文化は娯楽などを主目的とした趣味的文化のことであり、現代の若者の「文化」もB級文化である。新しい文化、これから創造されるであろう文化を許容できる場が必要ではないだろうか。

本計画は、都市に溢れるさまざまなB級文化を許容し新たな文化を創造する「森」である。この「森」はゾーニングされてい

ない。「人」、「モノ」、「時間」、「空間」、「風景」、「情報」が縦横無尽に錯綜するのである。何かの目的を持って行くもよし、とにかくそこへ行って、それから何をするかを決められる場所である。空間全体がインタラクティブな状態となり新しい文化を創造するキッカケが生まれる。







## 2006 年度 近畿大学工学部建築学科作品集

---

---

平成 19 年 (2007 年)6 月 第一刷

発行 近畿大学工学部建築学科  
〒 739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺 1  
tel 082-434-7000 fax 082-434-7011  
<http://www.archi.hiro.kindai.ac.jp/>  
編集 鈴木聖明・三木康嵩 (建築学科環境設計研究室)  
印刷・製本 近畿大学工学部建築学科

---

本書の全部または一部の複写・複製等を禁じます。

Copyright (C) Kinki University, All Rights Reserved, 2007